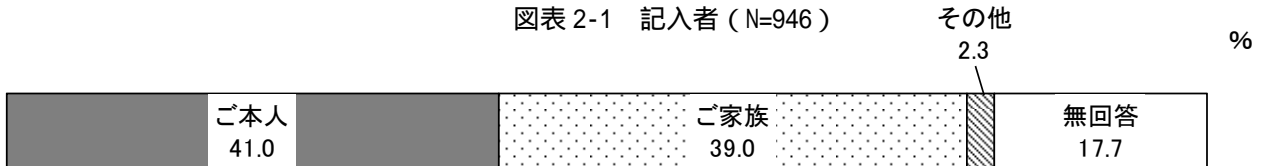


## II. 居宅サービス利用者調査

### 【調査票の記入者】

ご回答者は「ご本人（41.0%）」と「ご家族（39.0%）」が、各々約4割であった（図表2-1）。

図表 2-1 記入者（N=946）



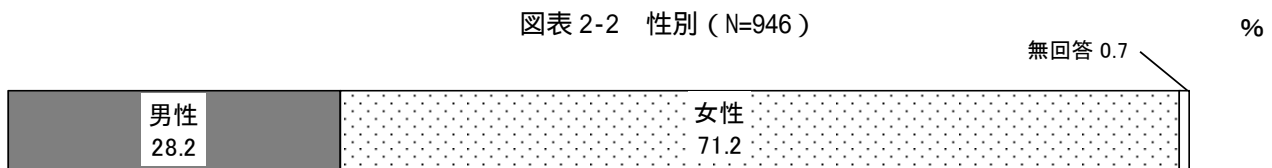
### 1. ご本人のこと

#### (1) 性別

問1 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

回答者は、「男性（28.2%）」が約3割で、「女性（71.2%）」が約7割であった。（図表2-2）。

図表 2-2 性別（N=946）



#### (2) 年齢

問2 あなたはおいくつですか？ 平成22年11月1日現在の年齢でお答えください。

回答者の年齢構成は、75歳以上の後期高齢者が約9割であった（図表2-3）。

図表 2-3 年齢（N=946）



図表 2-4 年齢（性別）

		年齢 (%)							
		40歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳以上	合計
性別	男性 (N=265)	1.9	2.6	10.9	18.9	24.9	23.0	17.7	100.0
	女性 (N=668)	0.9	1.0	5.8	16.6	30.4	26.9	18.3	100.0

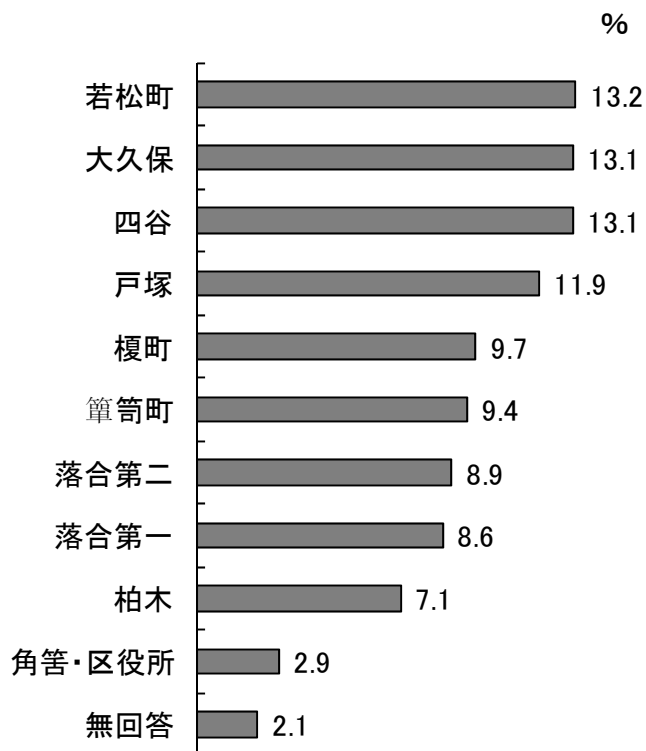
### (3) 居住地

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか？（あてはまる番号に1つ）

回答者の居住地（特別出張所管内）は、「若松町（13.2%）」が最も多く、続いて「大久保（13.1%）」「四谷（13.1%）」であった。

最も少なかったのは、「角筈・区役所（2.9%）」であった（図表 2-5）。

図表 2-5 居住地（N=946）



(4) 世帯構成

問4 あなたは、ひとり暮らしですか？ それとも夫婦のみでお暮らしですか？

(あてはまる番号に1つ)

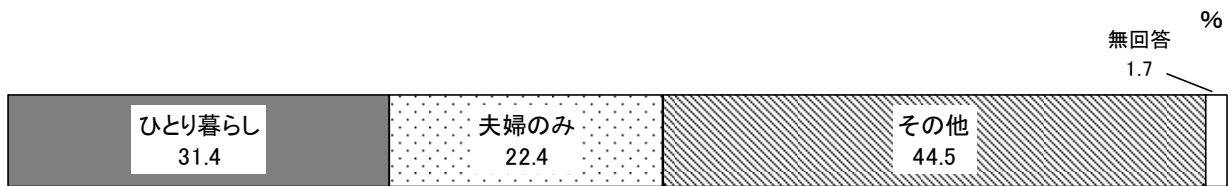
また、あなたを含めた世帯の人数をご記入ください。

いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。

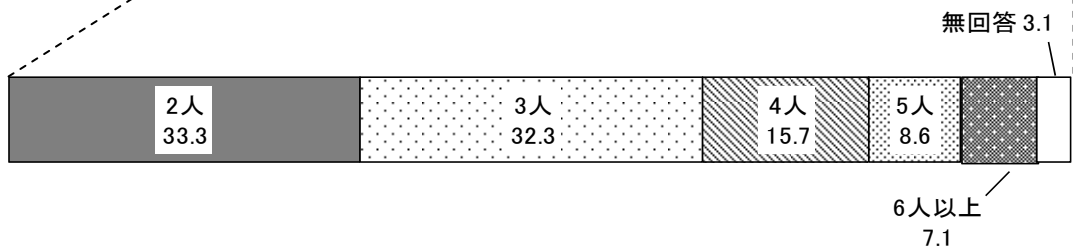
世帯構成は、「ひとり暮らし」が31.4%、「夫婦のみ」が22.4%、「その他」が44.5%であった(図表2-6)。

「その他」と答えた人の世帯人数は「2人(33.3%)」が、最も多く、続いて「3人(32.3%)」であった(図表2-7)。

図表 2-6 世帯構成 (N=946)



図表 2-7 世帯人数 (N=421)

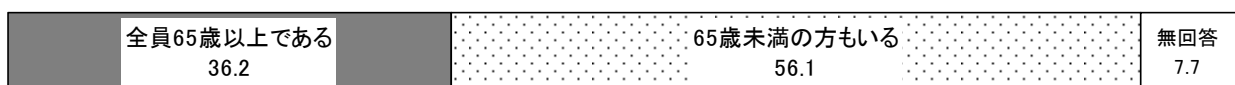


(4-1) 同居者の年齢

問4-1 同居されている方はおいくつですか？ (あてはまる番号に1つ)

「ひとり暮らし」以外の世帯における同居者の年齢について、「全員65歳以上である」世帯は、36.2%であった(図表2-8)。(※ひとり暮らしと合わせて高齢者のみ世帯は、全体で55.6%である)。

図表 2-8 同居者の年齢 (N=633)



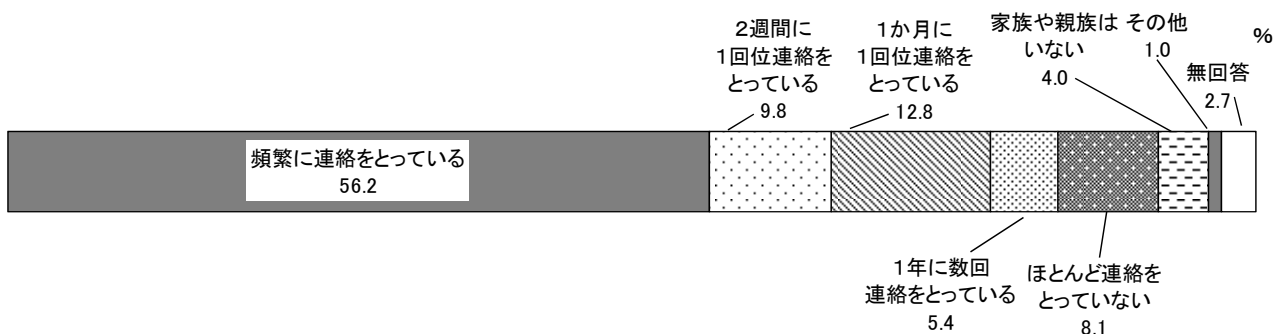
(4-2) ひとり暮らし高齢者の状況

問4-2 あなたは、ご家族やご親族と連絡をとっていますか？（あてはまる番号に1つ）

問4で「1. ひとり暮らし」と答えた人にたずねた。

ひとり暮らしの方の、家族や親族との連絡状況についてみると、「頻繁に連絡をとっている」人は56.2%であった。一方「ほとんど連絡をとっていない」は8.1%、「家族や親族はいない」は4.0%であった（図表2-9）。

図表 2-9 家族や親族との連絡頻度



問4-3 あなたには、普段の生活で困った時に、近所（30分以内程度の距離）に手助けを頼める人がいますか？（あてはまる番号に1つ）

ひとり暮らしの方で、近所に手助けを頼める人が「いる」は73.1%であった（図表2-10）。

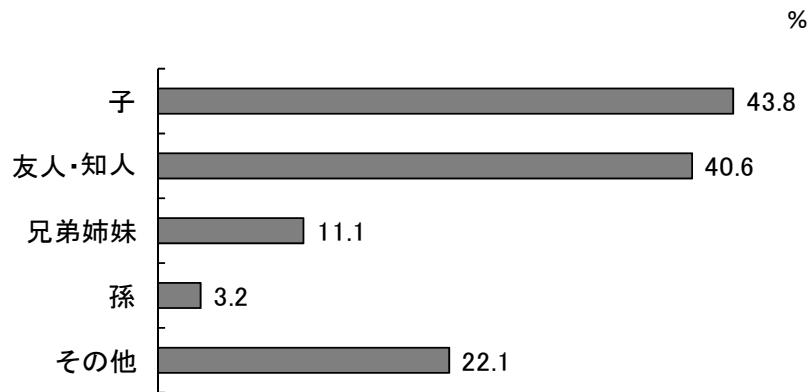
図表 2-10 近所に手助けを頼める人の有無 (N=297)



問 4-4 手助けを頼める人はどなたですか？（あてはまる番号すべてに）

手助けを頼める人は「子（43.8%）」が最も多く、次いで「友人・知人（40.6%）」であった（図表 2-11）。

図表 2-11 手助けを頼める人（複数回答）(N=217)

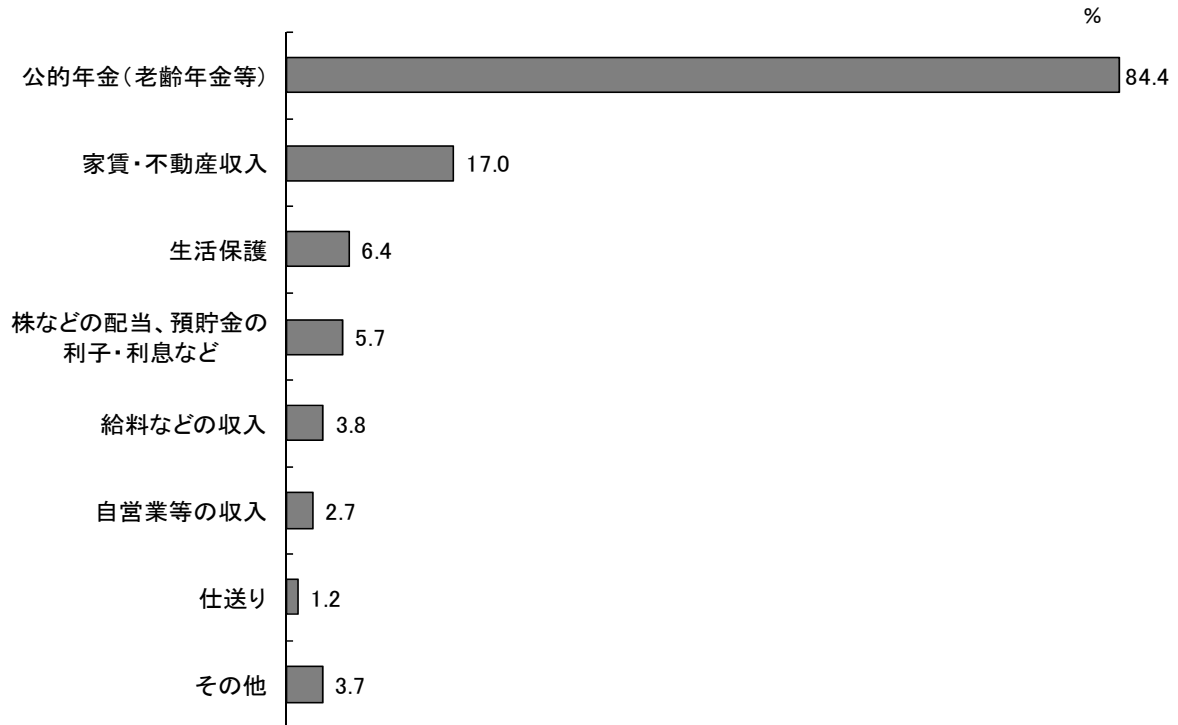


## (5) 収入源

問5 あなたご本人の収入源はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

本人の収入源は、「公的年金（老齢年金等）（84.4%）」が約8割であった（図表2-12）。

図表 2-12 収入源（複数回答）(N=929)



## (6) 暮らし向き

問6 現在の暮らし向きはどうですか？（あてはまる番号に1つ）

現在の暮らし向きでは、「ゆとりがある」（「ゆとりがある」「ややゆとりがある」）と回答した人は5割を超え、一方、「苦しい」（「苦しい」「やや苦しい」）と回答した人は47.2%であった（図表2-13）。

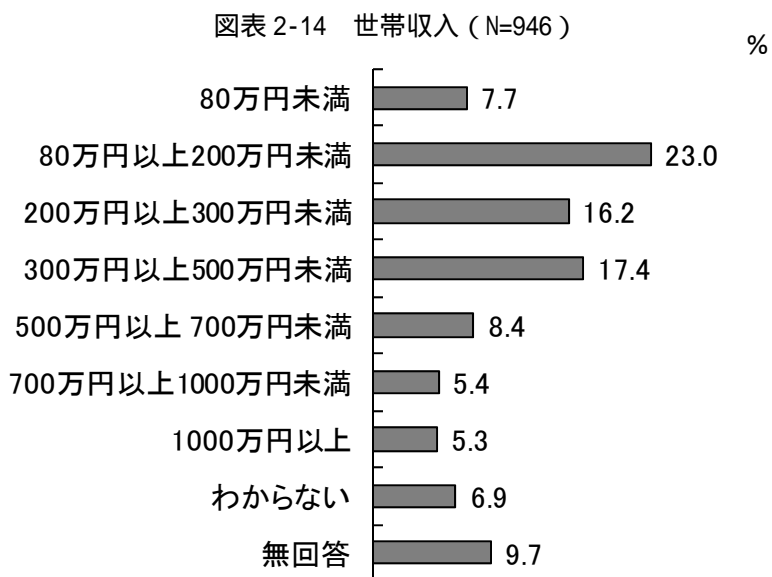
図表 2-13 暮らし向き (N=946)



(7) 世帯収入

問7 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか?  
(あてはまる番号に1つ)

本人と家族の年間収入は「80万円以上200万円未満」が23.0%と最も多かった。一方「500万円以上(19.1%)」は、約2割であった(図表2-14)。

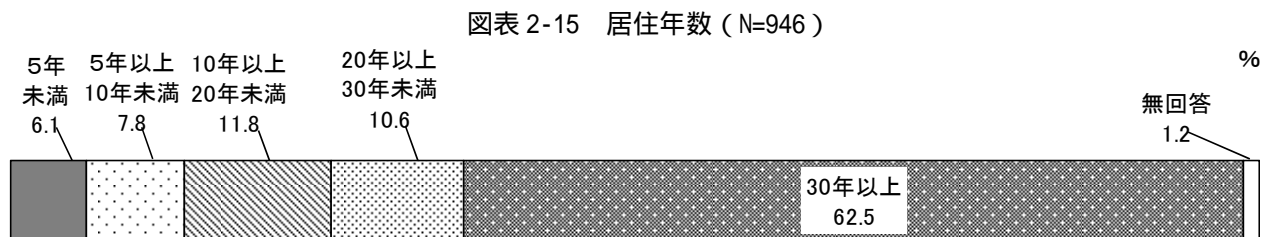


## 2. 住まいのこと

### (1) 居住年数・住居形態

問8 あなたは、現在の住居に、何年住んでいますか？（あてはまる番号に1つ）

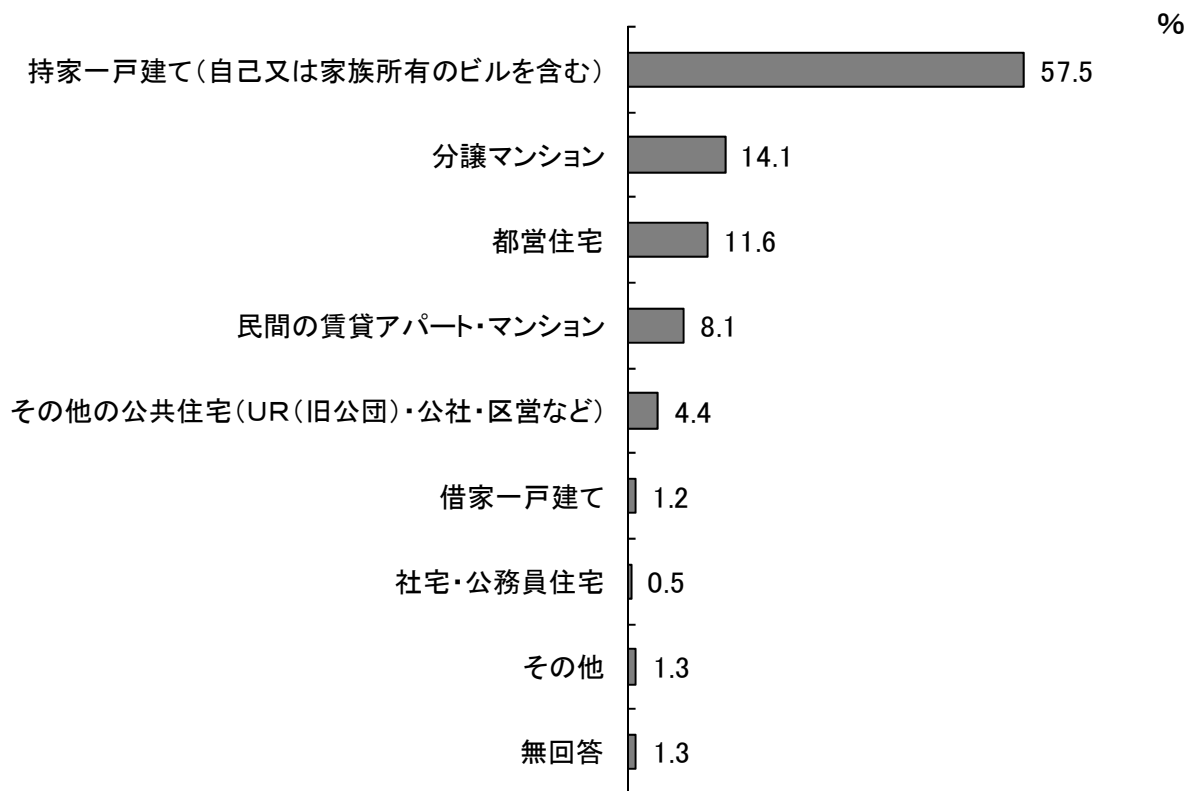
居住年数は、「30年以上（62.5%）」が6割以上を占め、一方「5年未満」は6.1%であった（図表2-15）。



問9 お住まいはどれですか？（あてはまる番号に1つ）

住居形態は、「持家一戸建て（自己又は家族所有のビルを含む）（57.5%）」と「分譲マンション（14.1%）」を合わせて7割以上であった。一方「都営住宅」は11.6%、「民間の賃貸アパート・マンション」は8.1%であった（図表2-16）。

図表 2-16 住居形態 (N=946)





問 10 お住まい(主に生活する部屋)は、2階以上にありますか？（あてはまる番号に1つ）

住まいが「2階以上にある（55.8%）」と回答した人は約6割であった（図表2-17）。また、2階以上に生活している人のうち、「エレベータがある」と回答した人は55.3%であった（図表2-18）。

図表 2-17 居室階数（2階以上か）(N=946)



図表 2-18 エレベータの有無 (N=528)



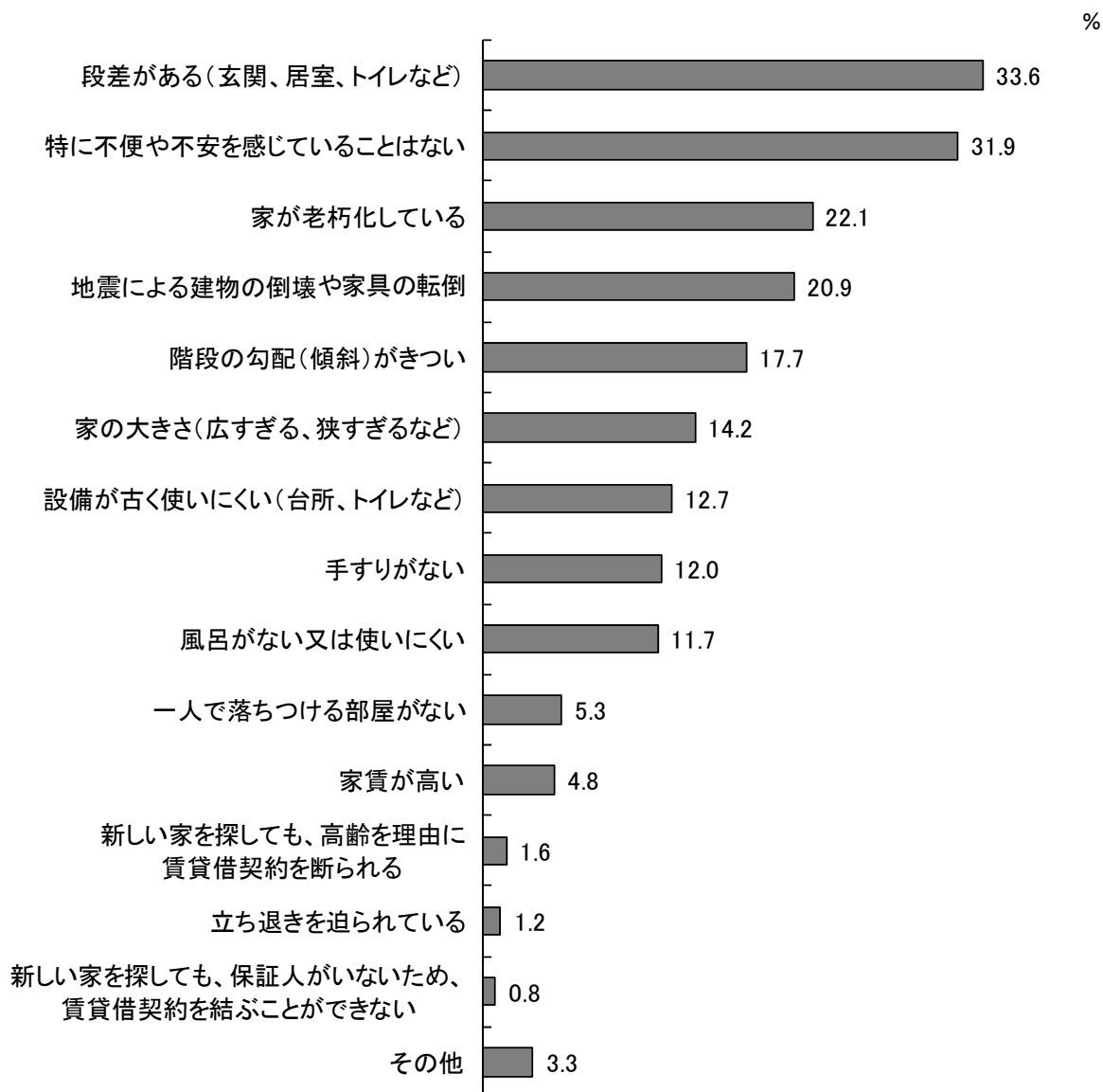
## (2) 住まいで不便や不安を感じること

問 11 現在のお住まいで、不便や不安を感じていることはありますか？  
(あてはまる番号すべてに )

「特に不便や不安を感じていることはない」と回答した人は 31.9%であった。一方、不便や不安を感じていることでは、「段差がある(33.6%)」が最も多く、続いて「家が老朽化している(22.1%)」「地震による建物の倒壊や家具の転倒(20.9%)」「階段の勾配(傾斜)がきつい(17.7%)」の順であった。

また、賃貸借の問題も少数ながらあげられ、「新しい家を探しても、高齢を理由に賃貸借契約を断られる」が 1.6%、「立ち退きを迫られている」が 1.2%、「新しい家を探しても、保証人がいないため、賃貸借契約を結ぶことができない」が 0.8%であった(図表 2-19)。

図表 2-19 住まいで不便や不安を感じること(複数回答)(N=836)



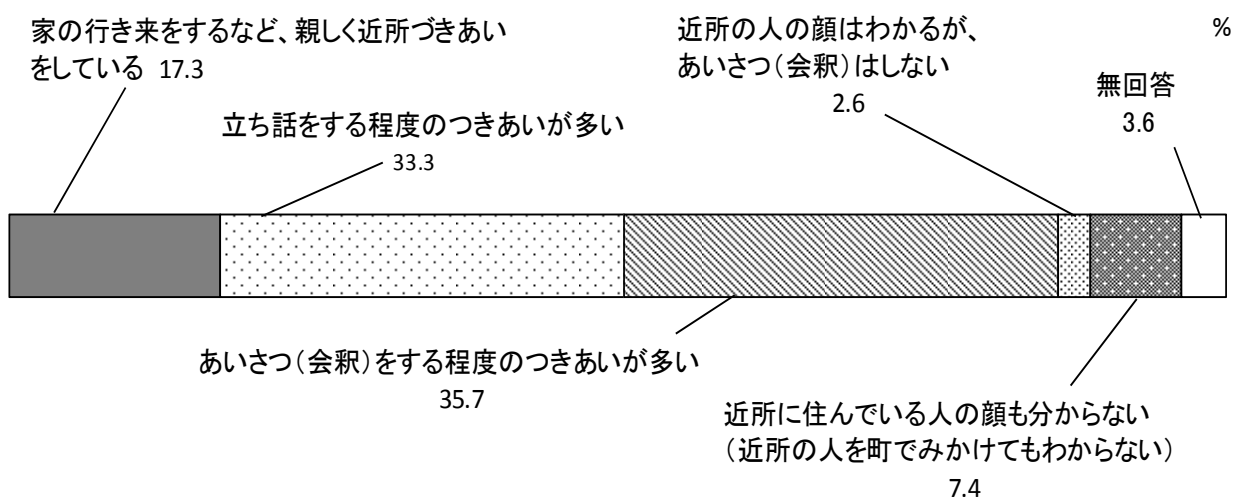
### 3. 日ごろの生活

#### (1) 近所づきあいの程度

問 12 あなたは、ご近所とどのようなおつきあいをしていますか？（あてはまる番号に1つ）

近所づきあいの程度では、「あいさつ（会釈）をする程度のつきあいが多（35.7%）」と回答した人が最も多く、次いで「立ち話をする程度のつきあいが多（33.3%）」であった。一方「近所の人の顔はわかるが、あいさつ（会釈）はしない」は2.6%、「近所に住んでいる人の顔もわからない（近所の人を町でみかけてもわからない）」は7.4%であった（図表 2-20）。

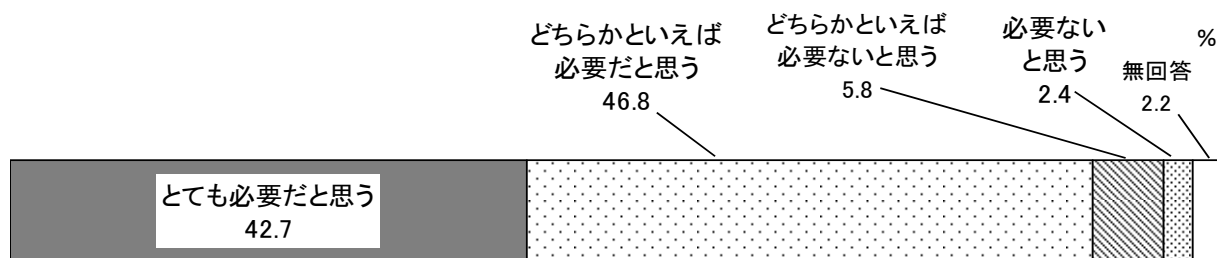
図表 2-20 近所づきあいの程度（N=946）



問 13 あなたは、日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）は必要だと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

近所のつながりの必要について、「必要だと思う」（「とても必要だと思う（42.7%）」「どちらかといえば必要だと思う（46.8%）」）と回答した人は約9割であった（図表 2-21）。

図表 2-21 地域のつながりの必要性（N=946）



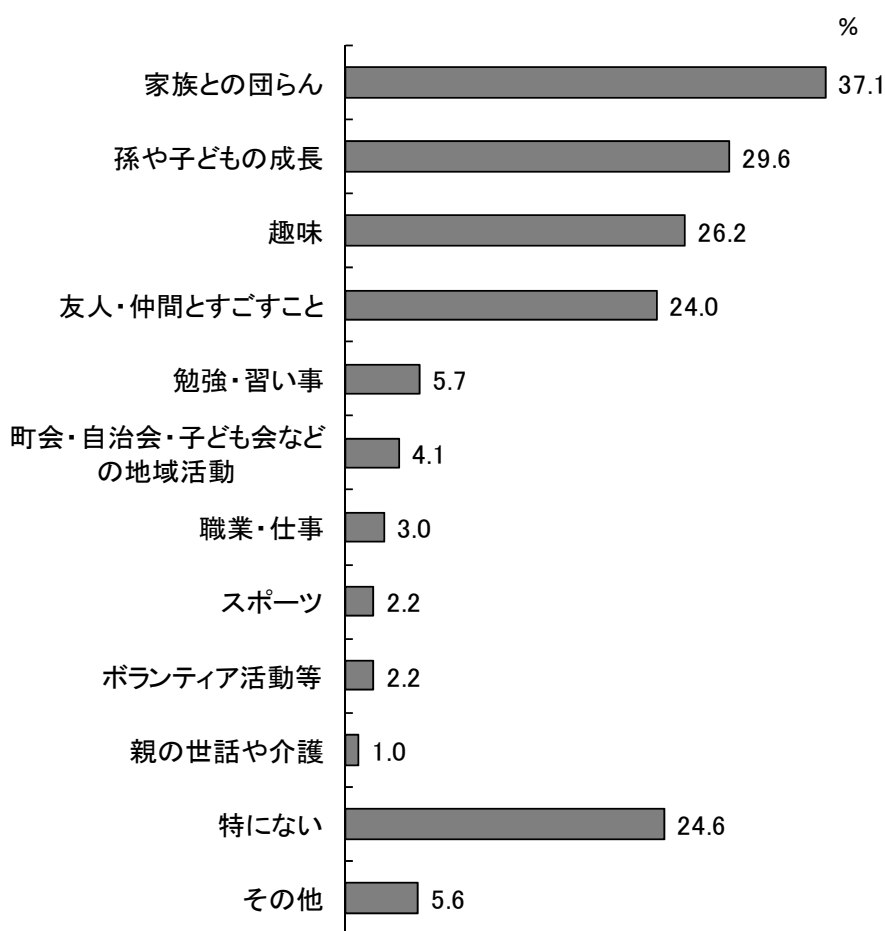
## 4. いきがいづくりや社会参加

### (1) いきがい

問 14 あなたは、どのようなことにいきがいを感じていますか？（あてはまる番号すべてに）

いきがいを感ずることについてたずねた。「家族との団らん（37.1%）」が最も多く、次いで「孫や子どもの成長（29.6%）」「趣味（26.2%）」の順であった（図表 2-22）。

図表 2-22 いきがいを感ずること（複数回答）(N=874)



図表 2-23 いきがいを感ずること（複数回答）(男女別)

		職業・仕事	会などの自治会・子ども会などの地域活動	ボランティア活動等	趣味	スポーツ	勉強・習い事	友人・仲間と過ごすこと	家族との団らん	孫や子どもの成長	親の世話や介護	特にない	その他
性別	男性 (N=246)	5.7	4.1	1.2	28.9	4.1	3.3	14.2	35.4	35.0	1.6	24.4	4.5
	女性 (N=624)	1.9	4.2	2.6	25.2	1.4	6.6	27.6	37.8	27.7	0.8	24.7	6.1

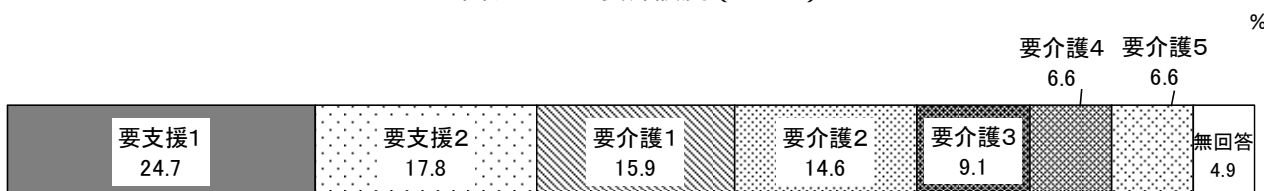
## 5. 要介護認定

### (1) 要介護度

問 15 あなたの現在の要介護度はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

要介護度は、「要支援」（「要支援1」「要支援2」）が42.5%、「要介護度1」が15.9%であった（図表 2-24）。

図表 2-24 要介護度（N=946）

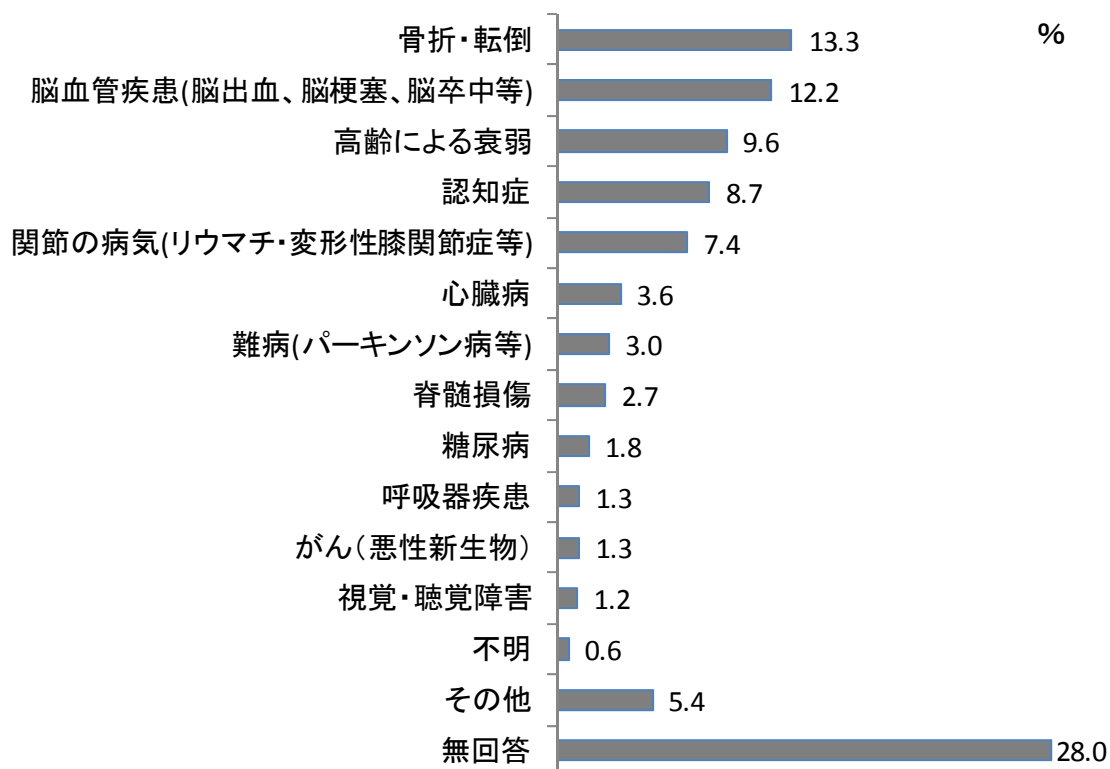


### (2) 介護を要する要因

問 16 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

「骨折・転倒（13.3%）」が最も多く、次いで「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞、脳卒中等）（12.2%）」「高齢による衰弱（9.6%）」「認知症（8.7%）」の順であった（図表 2-25）。

図表 2-25 介護を要する原因（N=946）



図表 2-26 介護を要する原因（要介護度別）

		脳血管疾患	骨折・転倒	高齢による衰弱	心臓病	関節の病気	認知症	難病 （パーキンソン病等）	がん （悪性新生物）
要介護度	要支援1 (N=169)	5.3	18.9	18.3	7.1	18.3	2.4	1.2	1.8
	要支援2 (N=116)	23.3	17.2	14.7	6.9	13.8	2.6	5.2	3.4
	要介護1 (N=111)	18.0	20.7	11.7	4.5	6.3	21.6	1.8	0.0
	要介護2 (N=103)	14.6	19.4	12.6	3.9	6.8	13.6	6.8	1.9
	要介護3 (N=64)	21.9	14.1	6.3	0.0	3.1	26.6	7.8	3.1
	要介護4 (N=51)	23.5	19.6	5.9	2.0	3.9	19.6	5.9	2.0
	要介護5 (N=47)	36.2	12.8	12.8	4.3	2.1	19.1	6.4	0.0

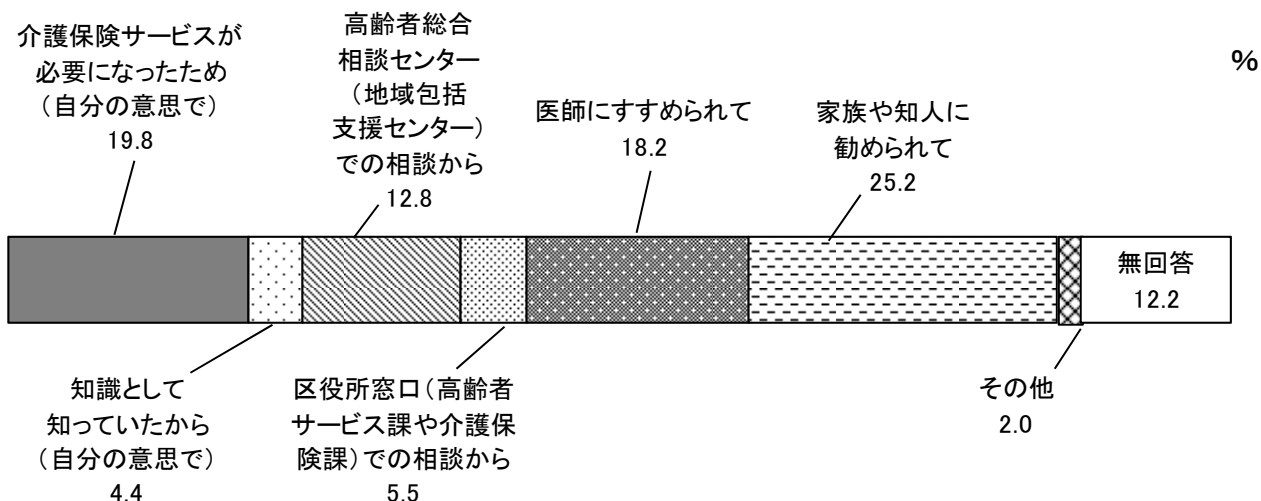
		呼吸器疾患	糖尿病	脊髄損傷	視覚・聴覚障害	不明	その他	合計
要介護度	要支援1 (N=169)	2.4	4.1	5.9	2.4	1.8	10.1	100.0
	要支援2 (N=116)	1.7	0.9	5.2	2.6	0.0	2.6	100.0
	要介護1 (N=111)	0.9	2.7	0.9	0.9	0.0	9.9	100.0
	要介護2 (N=103)	3.9	2.9	1.0	2.9	1.0	8.7	100.0
	要介護3 (N=64)	1.6	1.6	4.7	0.0	0.0	9.4	100.0
	要介護4 (N=51)	0.0	2.0	7.8	0.0	3.9	3.9	100.0
	要介護5 (N=47)	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	4.3	100.0

### (3) 要介護認定申請の動機

問 17 あなたが、初めて要介護認定の申請をしたときの動機はどれですか？  
(あてはまる番号に1つ)

「家族や知人に勧められて(25.2%)」が最も多く、次いで「介護保険サービスが必要になったため(19.8%)」「医師にすすめられて(18.2%)」の順であった(図表2-27)。

図表 2-27 要介護認定申請の動機 (N=946)



図表 2-28 要介護認定申請の動機 (要介護度別)

		介護保険サービスが必要になったため(自分の意思で)	知識として知っていたから(自分の意思で)	高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)での相談から	区役所窓口での相談から	医師にすすめられて	家族や知人に勧められて	その他	合計
要介護度	要支援1 (N=202)	29.2	7.9	17.3	7.9	9.4	26.2	2.0	100.0
	要支援2 (N=148)	26.4	6.8	11.5	6.8	18.9	27.0	2.7	100.0
	要介護1 (N=130)	17.7	1.5	16.9	6.2	22.3	34.6	0.8	100.0
	要介護2 (N=129)	21.7	1.6	14.0	3.9	30.2	25.6	3.1	100.0
	要介護3 (N=81)	11.1	6.2	9.9	7.4	33.3	28.4	3.7	100.0
	要介護4 (N=59)	23.7	5.1	13.6	6.8	18.6	32.2	0.0	100.0
	要介護5 (N=57)	15.8	3.5	15.8	3.5	24.6	35.1	1.8	100.0

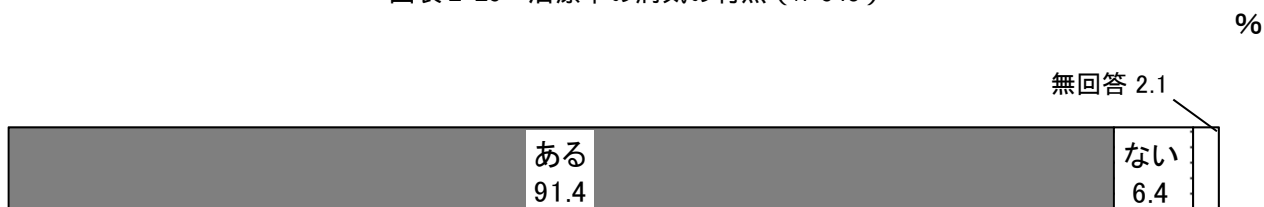
## 6. 医療機関の受診等

### (1) 治療中の病気

問 18 現在治療中の病気がありますか？（あてはまる番号に1つ）

現在治療中の病気が「ある（91.4%）」と回答した人は、約9割であった（図表 2-29）。

図表 2-29 治療中の病気の有無（N=946）

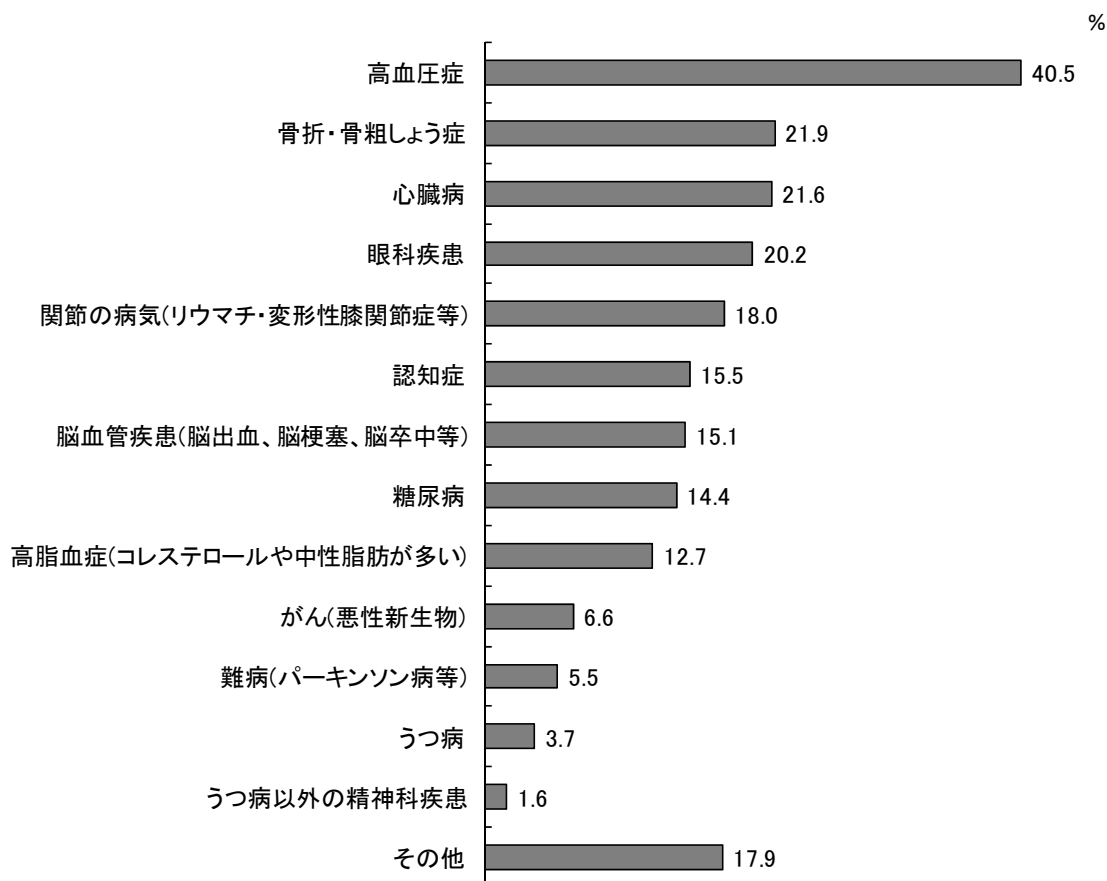


問 18-1 治療中の病気はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 18 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、病名をたずねた。

治療中の病気では、「高血圧症（40.5%）」が最も多く、次いで「骨折・骨粗しょう症（21.9%）」「心臓病（21.6%）」「眼科疾患（20.2%）」「関節の病気（リウマチ・変形性膝関節症等）（18.0%）」の順であった（図表 2-30）。

図表 2-30 治療中の病気の種類（複数回答）(N=860)



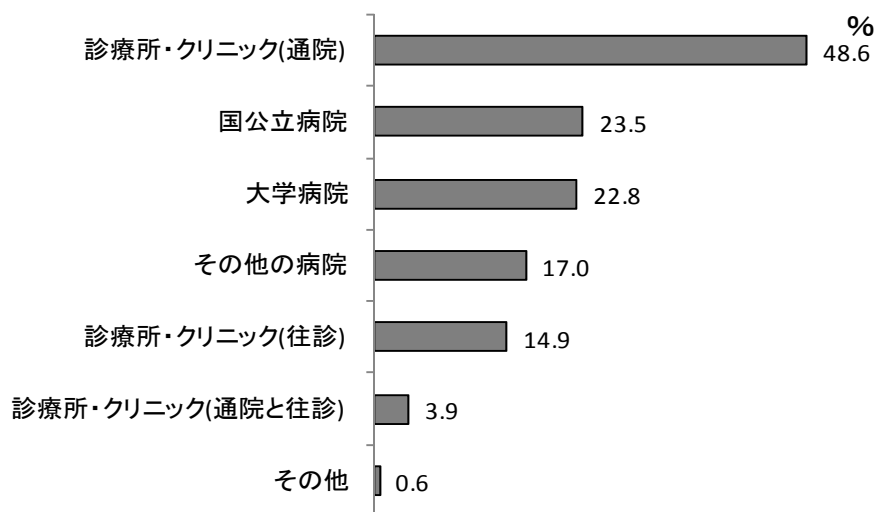


## (2) 受診している医療機関

### 問 18-2 受診している医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 18 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、受診している医療機関をたずねた。「診療所・クリニック（通院）（48.6%）」が最も多く、次いで「国公立病院（23.5%）」「大学病院（22.8%）」の順であった（図表 2-31）。

図表 2-31 受診している医療機関（複数回答）(N=848)

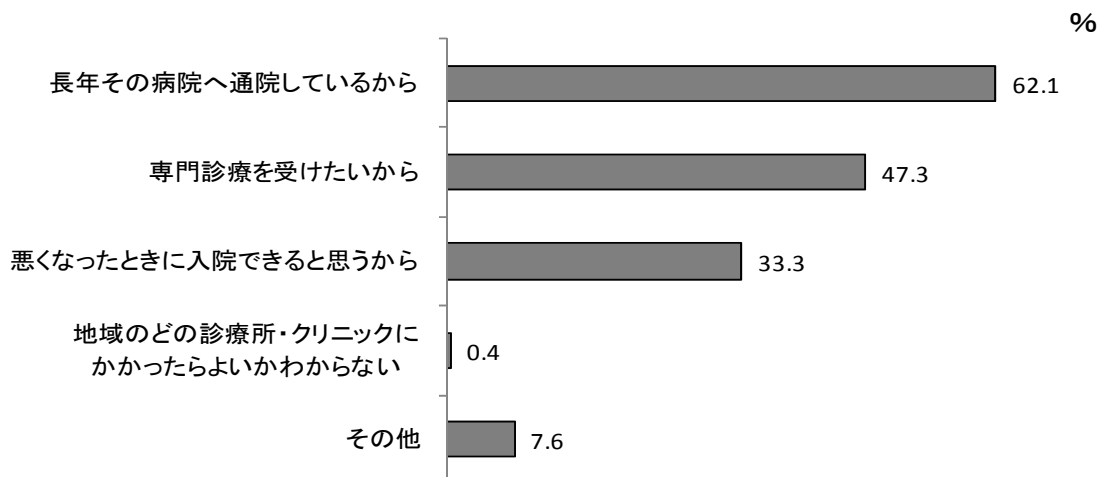


### 問 18-3 診療所やクリニック以外に病院を受診している理由は何ですか？

問 18-2 で「国公立病院」、「大学病院」、「その他の病院」と答えた人にたずねた。

大学病院等を受診している理由では、「長年その病院へ通院しているから（62.1%）」が最も多く、次いで「専門診療を受けたいから（47.3%）」「悪くなったときに入院できると思うから（33.3%）」の順であった（図表 2-32）。

図表 2-32 病院を受診している理由（複数回答）(N=459)

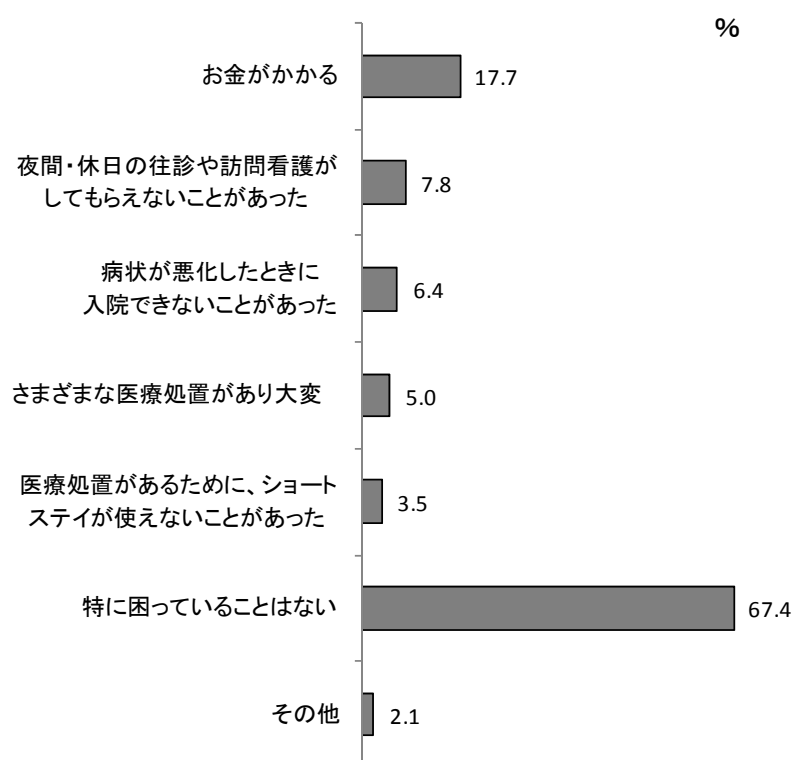


### (3) 在宅医療に関する困りごと

問 18-4 在宅医療を受けている中で困っている（困った）ことがありますか？  
（あてはまる番号すべてに）

問 18-2 で「2. 診療所・クリニック(往診)」「3. 診療所・クリニック(通院と往診)」と答えた人に在宅医療に関する困りごとをたずねたところ、「特に困っていることはない(67.4%)」と回答した人が約 7 割であった。一方、困っていることでは、「お金がかかる(17.7%)」と回答した人が最も多かった(図表 2-33)。

図表 2-33 在宅医療に関する困りごと(複数回答)(N=141)



(4) かかりつけ医

問 19 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる「かかりつけ医」がいますか？（あてはまる番号に1つ）

「かかりつけ医がいる（82.5%）」と回答した人は約8割であった（図表 2-34）。

図表 2-34 かかりつけ医の有無（N=946）



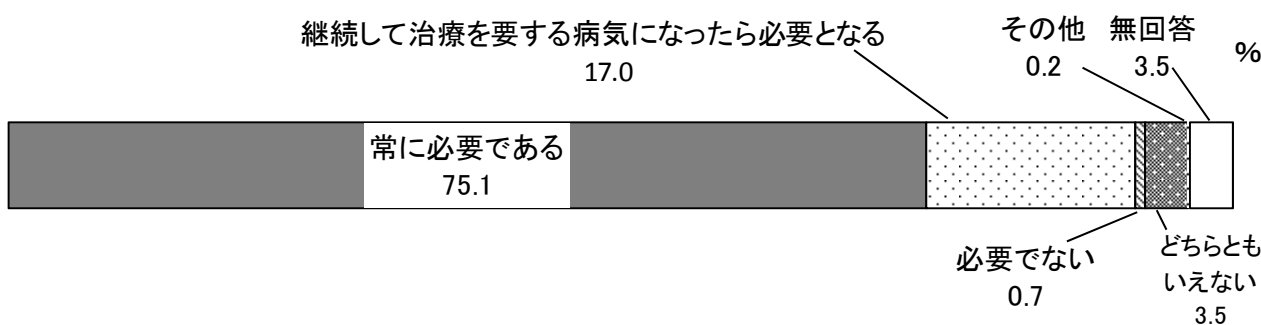
図表 2-35 かかりつけ医の有無（要介護度別）

		%		
		いる	いない	合計
要介護度	要支援1 (N=223)	89.2	10.8	100.0
	要支援2 (N=160)	86.9	13.1	100.0
	要介護1 (N=146)	80.8	19.2	100.0
	要介護2 (N=134)	85.1	14.9	100.0
	要介護3 (N=85)	85.9	14.1	100.0
	要介護4 (N=61)	83.6	16.4	100.0
	要介護5 (N=58)	94.8	5.2	100.0

問 20 「かかりつけ医」の必要性を、どうお考えですか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医の必要性では、「常に必要である（75.1%）」と回答した人が7割を超えて最も多く、次いで「継続して治療を要する病気になったら必要となる」が17.0%であった（図表 2-36）。

図表 2-36 かかりつけ医の必要性（N=946）



(5) 歯の状況・かかりつけ歯科医

問 21 あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか？（あてはまる番号に1つ）

1年以内に歯科を「受診した（50.8%）」と回答した人は、約5割であった（図表2-37）。

図表 2-37 1年以内の歯科受診の有無（N=946）

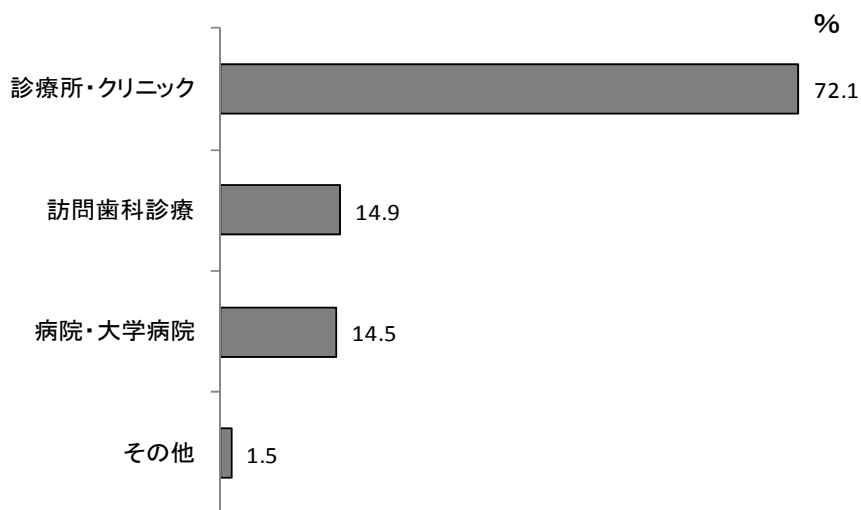


問 21-1 受診している歯科医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 21 で「受診した」と答えた人にたずねた。

受診した歯科医療機関の種類では、「診療所・クリニック（72.1%）」が最も多く、約7割であった（図表2-38）。

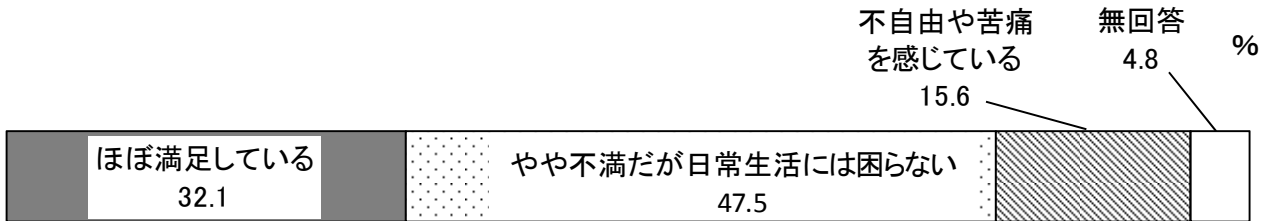
図表 2-38 受診した歯科医療機関（複数回答）(N=476)



問 22 あなたは、ご自身の歯や口、入れ歯の状態についてどのように感じていますか？  
 (あてはまる番号に1つ)

自分の歯や口、入れ歯の状態について、「ほぼ満足している」が 32.1%、「やや不満だが日常生活には困らない」が 47.5%であった。一方、「不自由や苦痛を感じている」人は 15.6%であった(図表 2-39)。

図表 2-39 歯や口、入れ歯の状態 (N=946)



問 23 あなたには、治療や予防のために継続的に受診したり、気軽に相談できる「かかりつけ歯科医」がいますか？ (あてはまる番号に1つ)

かかりつけ歯科医が「いる (59.3%)」と回答した人は約 6 割であった。一方「いない」と回答した人は 35.8%であった(図表 2-40)。

図表 2-40 かかりつけ歯科医の有無 (N=946)



※ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、診療所やクリニックにいる歯科医師をさします。

(6) こころの健康状況

問 24 最近 2 週間の、あなたの心の状況は、いかがですか？（あてはまる番号に 1 つ）

各項目に対する回答は次の通りであった。

こころの健康状態に関するすべての質問に「いいえ」と回答した人（「はい」と回答した数が 0 個）は、約 1 割であった（図表 2-41）。

	1. はい	2. いいえ	無回答
①毎日の生活に充実感がない。(N=946)	45.2%	45.7%	9.1%
②これまで楽しんでやれていたことが、楽しめなくなった。(N=946)	52.0%	39.7%	8.2%
③以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。(N=946)	79.7%	15.0%	5.3%
④自分は役に立つ人間だと思えない。(N=946)	49.0%	42.1%	8.9%
⑤わけもなく疲れたような感じがする。(N=946)	62.1%	31.4%	6.6%

図表 2-41 こころの健康状況（5 項目に「はい」と回答した数の合計）(N=802)

	0個	1個	2個	3個	4個	5個
合計	9.6	11.2	14.2	18.5	19.6	26.9

図表 2-42 こころの健康状況（5 項目全てに答えた「はい」の数）  
（要介護度別 / 記憶力等の変化別）

(%)

		0個	1個	2個	3個	4個	5個	合計
要介護度	要支援1 (N=204)	11.8	15.7	16.7	18.1	17.2	20.6	100.0
	要支援2 (N=145)	10.3	11.0	9.7	20.7	24.1	24.1	100.0
	要介護1 (N=134)	7.5	11.9	14.9	20.9	20.1	24.6	100.0
	要介護2 (N=120)	9.2	10.8	15.8	20.0	12.5	31.7	100.0
	要介護3 (N=78)	6.4	7.7	16.7	12.8	23.1	33.3	100.0
	要介護4 (N=54)	7.4	9.3	18.5	16.7	16.7	31.5	100.0
	要介護5 (N=37)	8.1	0.0	5.4	13.5	27.0	45.9	100.0
記憶力等の変化	ある (N=529)	5.1	7.4	13.0	20.6	20.4	33.5	100.0
	ない (N=254)	18.1	18.9	17.3	14.6	17.7	13.4	100.0

## 7. 認知症

### (1) 記憶力等の変化

問 25 あなたは、ここ 6 か月から 1 年の間に、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じる  
ことがありますか？（あてはまる番号に 1 つ）

ここ 6 か月から 1 年の間に、物忘れや理解・判断力の低下などを感じる人が「ある」と回答した人は 65.3%であり、「ない」と回答した人は 30.2%であった（図表 2-43）。

図表 2-43 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（N=946）



図表 2-44 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（介護を要する原因別）  
(%)

		ある	ない	合計
介護を要する原因	脳血管疾患 (N=110)	49.1	50.9	100.0
	骨折・転倒 (N=124)	71.8	28.2	100.0
	高齢による衰弱 (N=88)	78.4	21.6	100.0
	心臓病 (N=33)	72.7	27.3	100.0
	関節の病気 (N=65)	67.7	32.3	100.0
	認知症 (N=80)	96.3	3.8	100.0
	難病(パーキンソン病等) (N=25)	48.0	52.0	100.0
	がん(悪性新生物) (N=11)	72.7	27.3	100.0
	呼吸器疾患 (N=12)	50.0	50.0	100.0
	糖尿病 (N=17)	58.8	41.2	100.0
	脊髄損傷 (N=26)	65.4	34.6	100.0
	視覚・聴覚障害 (N=10)	50.0	50.0	100.0
	不明 (N=5)	60.0	40.0	100.0
	その他 (N=49)	59.2	40.8	100.0

問 25-1 物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか？  
 (あてはまる番号に1つ)

問 25 で「ある」と回答した人に、相談状況をたずねた。  
 相談を「していない (63.1%)」と回答した人は、約 6 割であった (図表 2-45)。

図表 2-45 相談の有無 (N=618)



図表 2-46 相談の有無 (要介護度別)

		(%)		
		した	していない	合計
要 介 護 度	要支援1 (N=144)	18.1	81.9	100.0
	要支援2 (N=97)	23.7	76.3	100.0
	要介護1 (N=109)	51.4	48.6	100.0
	要介護2 (N=92)	46.7	53.3	100.0
	要介護3 (N=58)	46.6	53.4	100.0
	要介護4 (N=43)	58.1	41.9	100.0
	要介護5 (N=40)	37.5	62.5	100.0

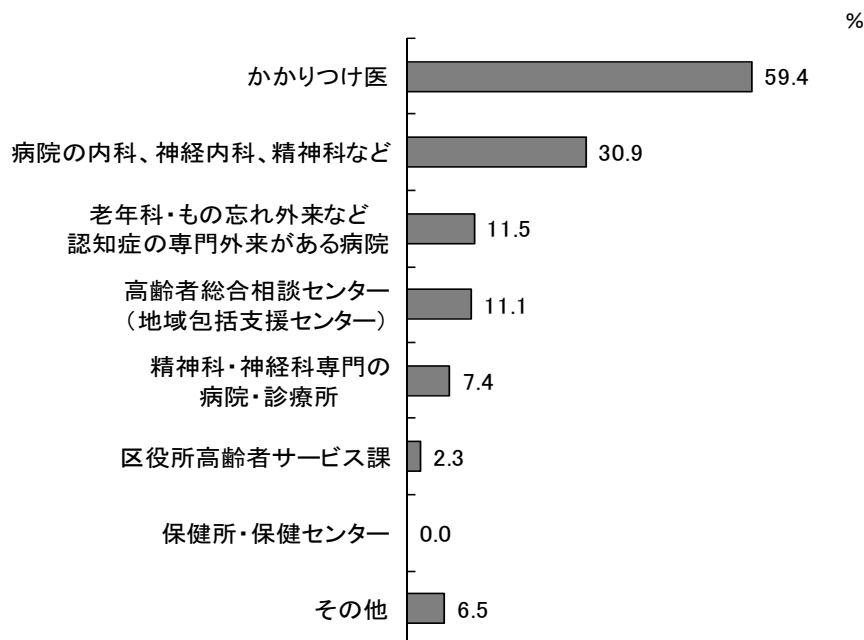


問 25-2 どちらに相談しましたか？（あてはまる番号すべてに）

問 25-1 で「相談した」と回答した人に、相談先をたずねた。

「かかりつけ医（59.4%）」が最も多く、次いで「病院の内科、神経内科、精神科など（30.9%）」であった（図表 2-47）。

図表 2-47 相談先（複数回答）(N=217)

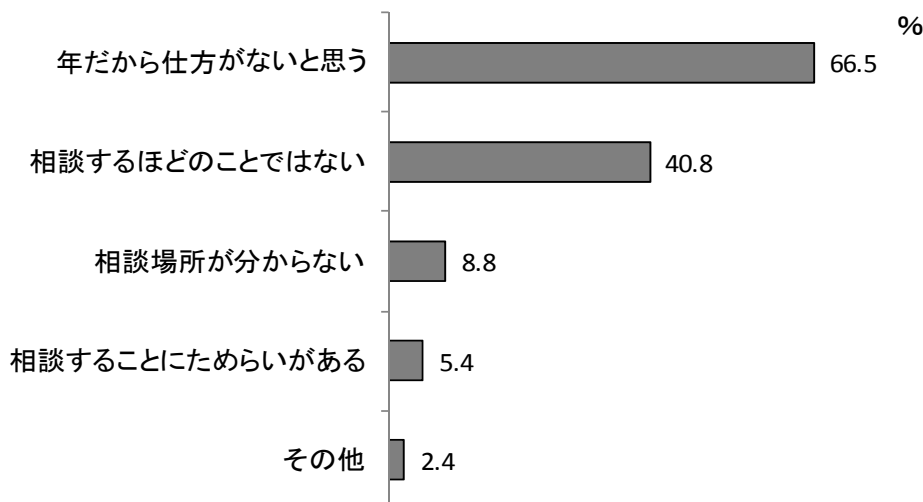


問 25-3 相談していない理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 25-1 で「相談していない」と回答した人に、その理由をたずねた。

「年だから仕方がないと思う（66.5%）」が最も多く、次いで「相談するほどのことではない（40.8%）」であった（図表 2-48）。

図表 2-48 相談していない理由（複数回答）(N=373)

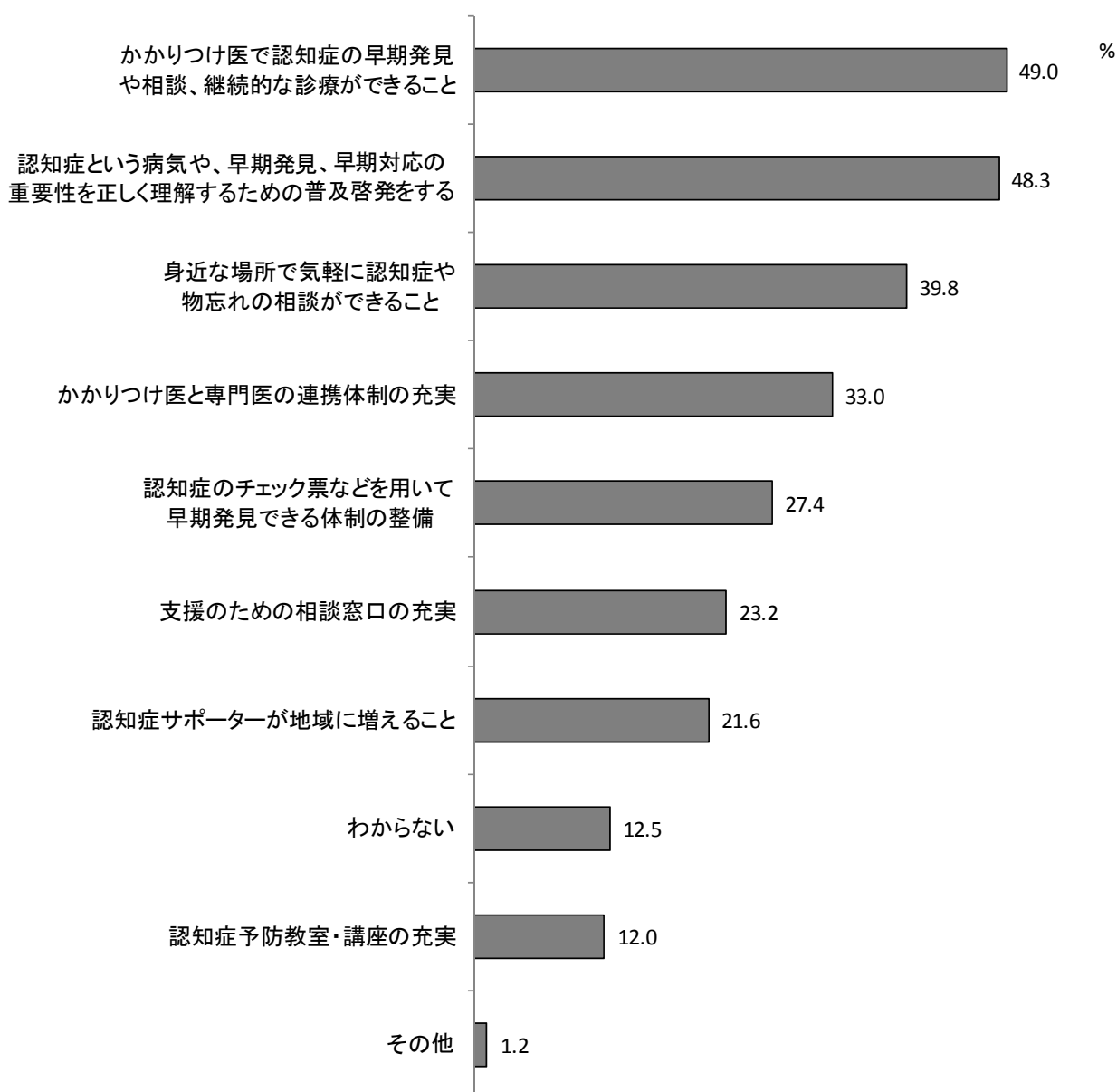


## (2) 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと

問 26 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実にために、何が必要だと思いますか？  
(あてはまる番号すべてに )

認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なことでは、「かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること(49.0%)」と回答した人が最も多く、次いで「認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする(48.3%)」「身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること(39.8%)」の順であった(図表2-49)。

図表 2-49 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと(複数回答)(N=849)



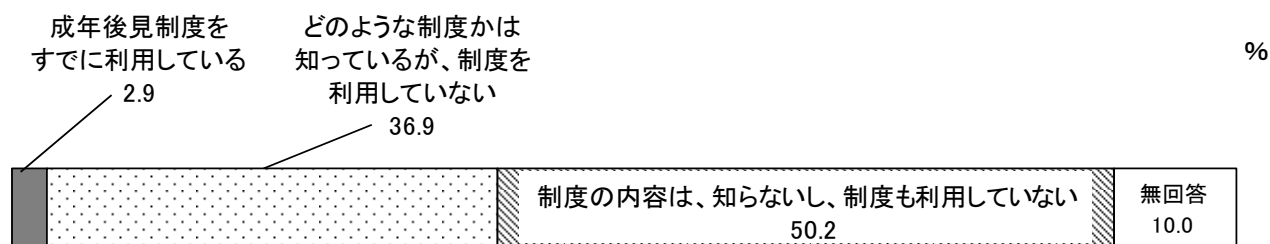
## 8. 権利擁護

### (1) 成年後見制度の認知度

問 27 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「制度の内容は、知らないし、制度も利用していない（50.2%）」と回答した人は、約5割であった（図表2-50）。

図表 2-50 成年後見制度の認知度（N=946）

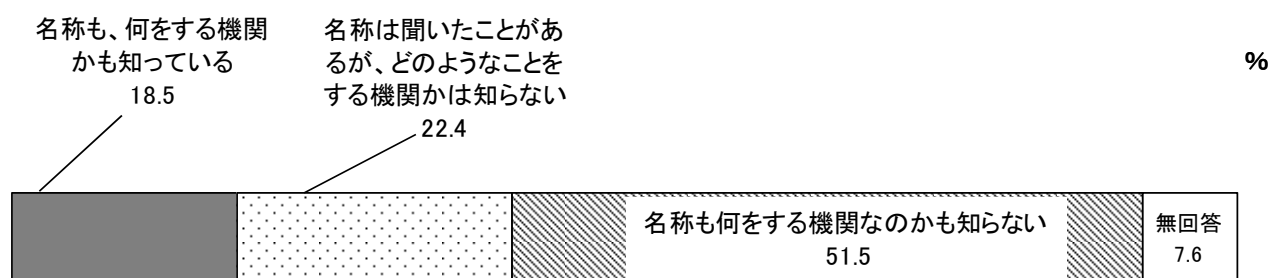


### (2) 新宿区成年後見センターの認知度

問 28 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「名称も何をする機関なのかも知らない（51.5%）」と回答した人は、約5割であった（図表2-51）。

図表 2-51 新宿区成年後見センターの認知度



### (3) 新宿区成年後見センターの利用意向

問 29 あなたやご家族が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したいと思いますか？  
(あてはまる番号に1つ)

新宿区成年後見センターの事業説明をしたうえで、利用意向についてたずねた。「新宿区成年後見センターに相談し、成年後見制度を利用したい(50.4%)」と回答した人は約5割であった(図表2-52)。

図表 2-52 新宿区成年後見センターの利用意向 (N=946)



## 9. 介護保険サービスの利用状況と利用意向

### (1) 介護保険サービスの利用状況等

問 30 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか？（あてはまる番号に1つ）

「利用している（73.9%）」と回答した人は約 7 割、「利用していない（22.8%）」と回答した人は約 2 割であった（図表 2-53）。

図表 2-53 介護保険サービスの利用状況



図表 2-54 介護保険サービスの利用状況（要介護度別）

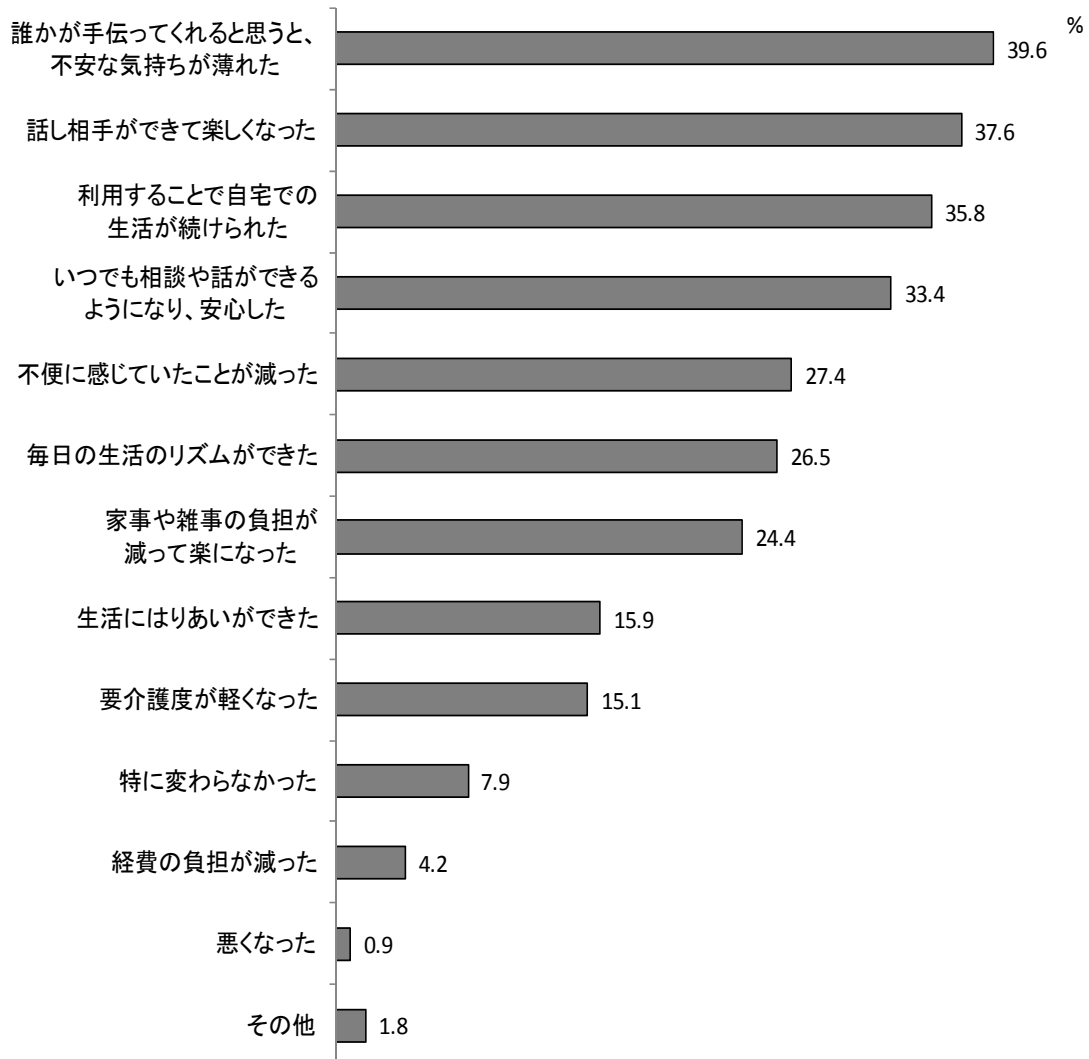
(%)

		利用している	利用していない	合計
要介護度	要支援1 (N=225)	58.2	41.8	100.0
	要支援2 (N=166)	74.1	25.9	100.0
	要介護1 (N=144)	81.3	18.8	100.0
	要介護2 (N=135)	88.9	11.1	100.0
	要介護3 (N=84)	88.1	11.9	100.0
	要介護4 (N=62)	95.2	4.8	100.0
	要介護5 (N=60)	91.7	8.3	100.0

問 30-1 介護保険サービスを利用するようになってから、あなたの状況は変わりましたか？  
 (あてはまる番号すべてに )

問 30 で「利用している」と回答した人に、サービス利用後の状況の変化についてたずねた。「誰かが手伝ってくれると思うと、不安な気持ちが薄れた (39.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「話し相手ができるようになった(37.6%)」、「利用することで自宅での生活が続けられた(35.8%)」、「いつでも相談や話ができるようになり、安心した (33.4%)」の順であった (図表 2-55)。

図表 2-55 介護保険サービス利用後の状況変化 (複数回答) (N=667)



図表 2-56 介護保険サービス利用後の状況変化（要介護度別 / 複数回答）

(%)

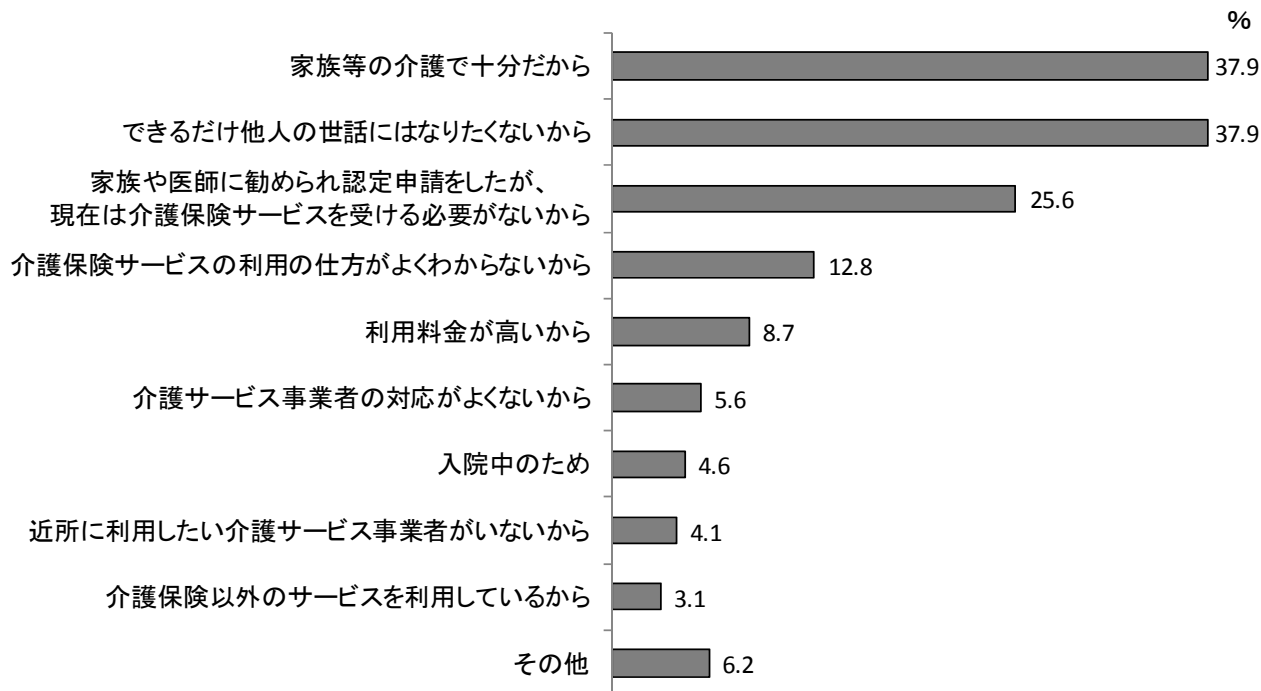
	要介護度が軽くなった	誰かが不安な気持ちや薄れ	いつでも相談や話ができるようになった	話し相手ができ、楽しくなった	毎日の生活のリズムができ	生活にはりあいができた	不便に感じていたことが減った	
要介護度	要支援1 (N=122)	14.8	35.2	26.2	35.2	17.2	13.9	27.0
	要支援2 (N=118)	25.4	41.5	35.6	35.6	22.0	16.1	24.6
	要介護1 (N=115)	11.3	46.1	40.9	47.8	33.0	20.0	27.0
	要介護2 (N=114)	11.4	40.4	32.5	36.8	25.4	13.2	28.1
	要介護3 (N=71)	12.7	35.2	28.2	33.8	29.6	15.5	28.2
	要介護4 (N=59)	16.9	39.0	40.7	37.3	35.6	20.3	33.9
	要介護5 (N=50)	10.0	36.0	26.0	28.0	34.0	14.0	26.0

	活利用が続けることで自宅での生活	家事や雑事の負担が減った	経費の負担が減った	特に変わらなかった	悪くなった	その他	
要介護度	要支援1 (N=122)	24.6	39.3	3.3	9.8	0.0	0.0
	要支援2 (N=118)	29.7	28.0	2.5	11.0	0.8	2.5
	要介護1 (N=115)	29.6	21.7	1.7	7.8	0.0	2.6
	要介護2 (N=114)	35.1	24.6	4.4	7.0	1.8	0.0
	要介護3 (N=71)	50.7	14.1	5.6	2.8	2.8	2.8
	要介護4 (N=59)	45.8	16.9	6.8	8.5	0.0	0.0
	要介護5 (N=50)	66.0	8.0	10.0	8.0	2.0	6.0

問 30-2 介護保険サービスを利用していない、または利用をやめた理由は次のうちどれですか？  
 (あてはまる番号すべてに )

問 30 で「利用していない」と回答した人に、サービスを利用していない理由をたずねた。「家族等の介護で十分だから (37.9%)」「できるだけ他人の世話にはなりたくないから (37.9%)」と回答した人がともに約 4 割と最も多く、次いで「家族や医師に勧められ認定申請をしたが、現在は介護保険サービスを受ける必要がないから (25.6%)」であった (図表 2-57)。

図表 2-57 介護保険サービスを利用していない理由 (複数回答) (N=195)



図表 2-58 介護保険サービスを利用していない理由 (要介護度別 / 複数回答)

		理由 (%)									
		できるだけ他人の世話には	家族等の介護で十分だから	利用料金が高いから	介護サービス事業者の対応がよくないから	近所に利用したい介護サービス事業者がないから	仕方がよくわからないから	介護保険以外のサービスを利用しているから	入院中のため	家族や医師に勧められ認定申請をしたが、現在は介護保険サービスを受ける必要がないから	その他
要介護度	要支援1 (N=84)	38.1	35.7	4.8	2.4	4.8	16.7	6.0	1.2	25.0	6.0
	要支援2 (N=37)	40.5	54.1	8.1	10.8	2.7	5.4	2.7	2.7	18.9	5.4
	要介護1 (N=26)	50.0	30.8	0.0	3.8	3.8	7.7	0.0	3.8	42.3	7.7
	要介護2 (N=14)	35.7	50.0	28.6	28.6	7.1	21.4	0.0	7.1	14.3	0.0
	要介護3 (N=9)	22.2	11.1	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	22.2
	要介護4 (N=3)	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	要介護5 (N=5)	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	20.0



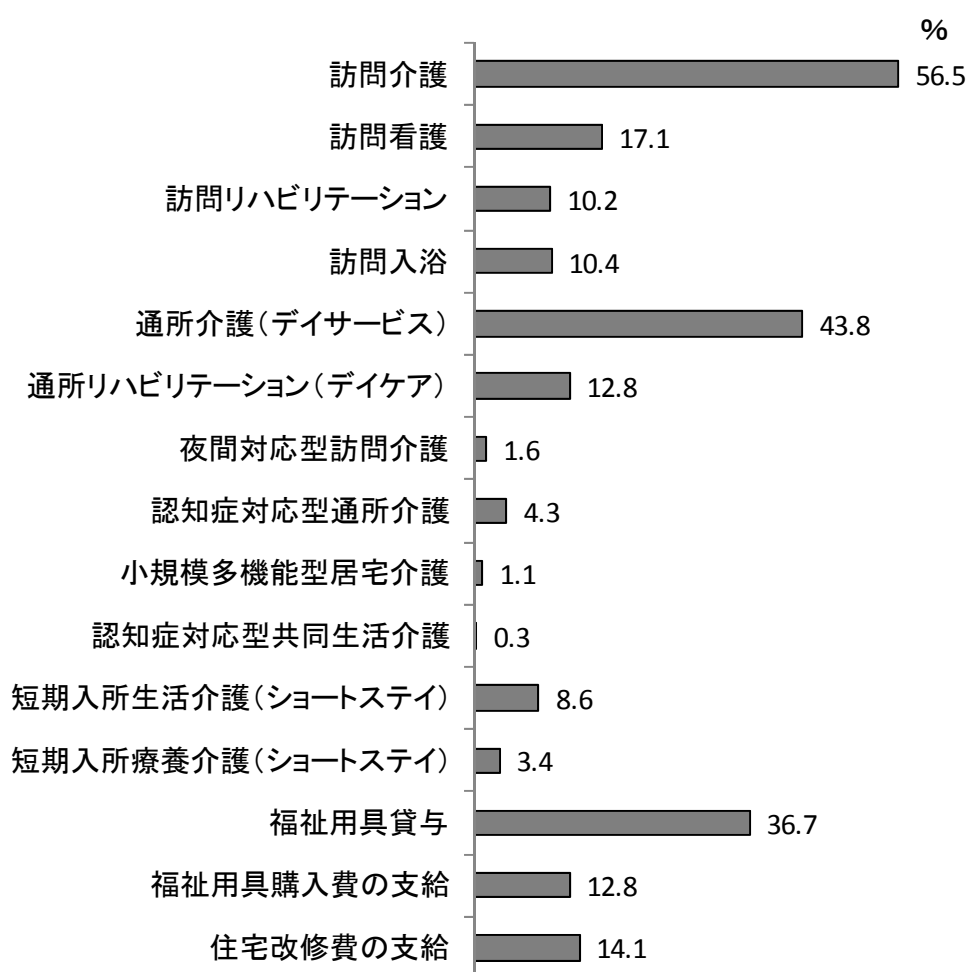
## (2) 現在利用しているサービス・満足度、今後新たに利用したいサービス

問 30-3 介護保険サービスについておたずねします。下表の ~ の設問についてお答えください。

### 現在利用しているサービス

現在利用している介護保険サービスでは、「訪問介護（56.5%）」が最も多く、続いて「通所介護（43.8%）」「福祉用具貸与（36.7%）」の順であった（図表 2-59）。

図表 2-59 現在利用しているサービス（複数回答）（N=626）

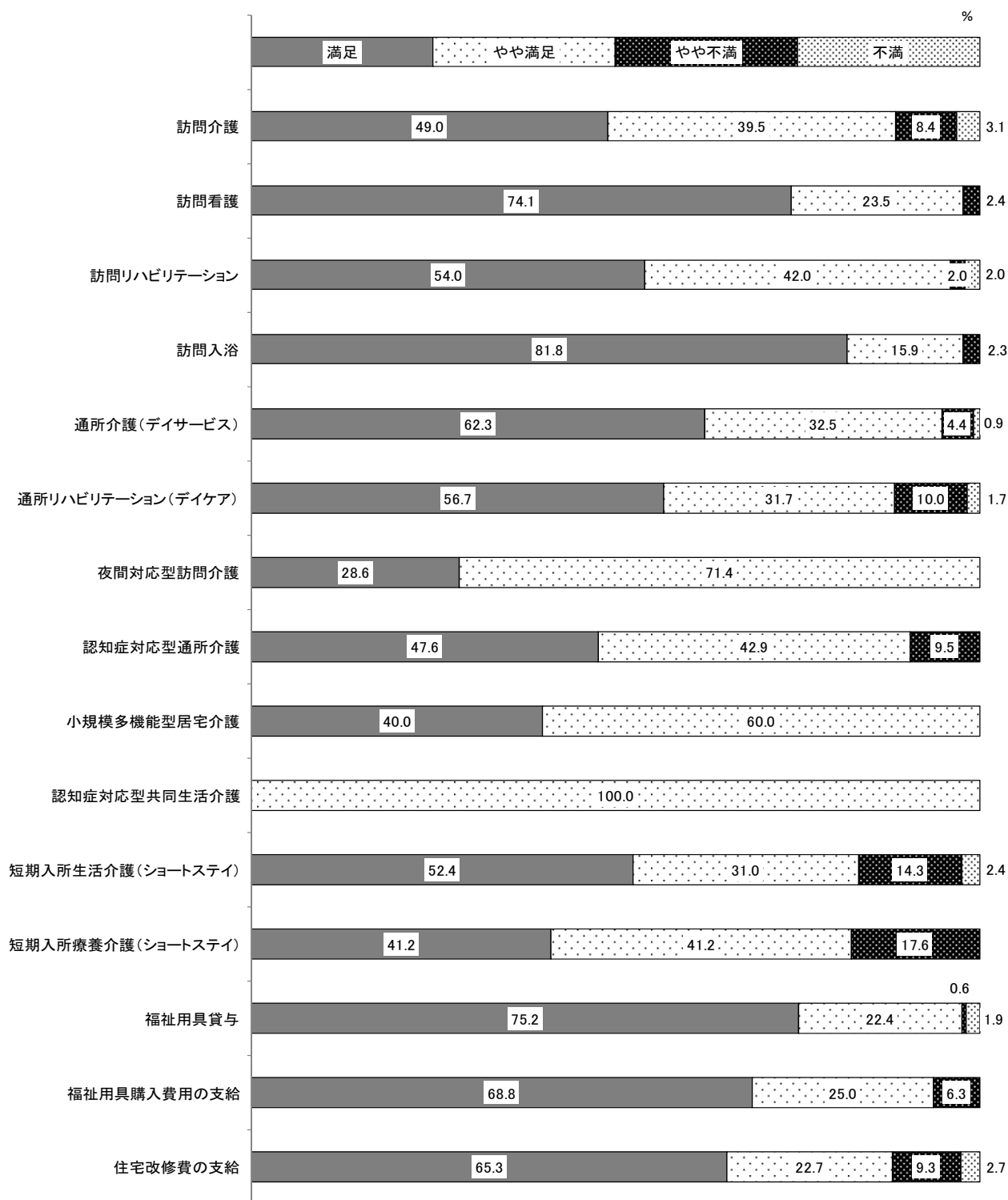


※上記のサービスは介護予防も含む

## 現在利用しているサービスの満足度

全般的にみれば、いずれの介護保険サービスについても、「満足」（「満足」もしくは「やや満足」）と回答した人が9割以上であった。一方「短期入所生活介護」「短期入所療養介護」では「不満」（「不満」もしくは「やや不満」）と回答した人が約2割であった（図表2-60）。

図表2-60 現在利用しているサービスの満足度（N=626）

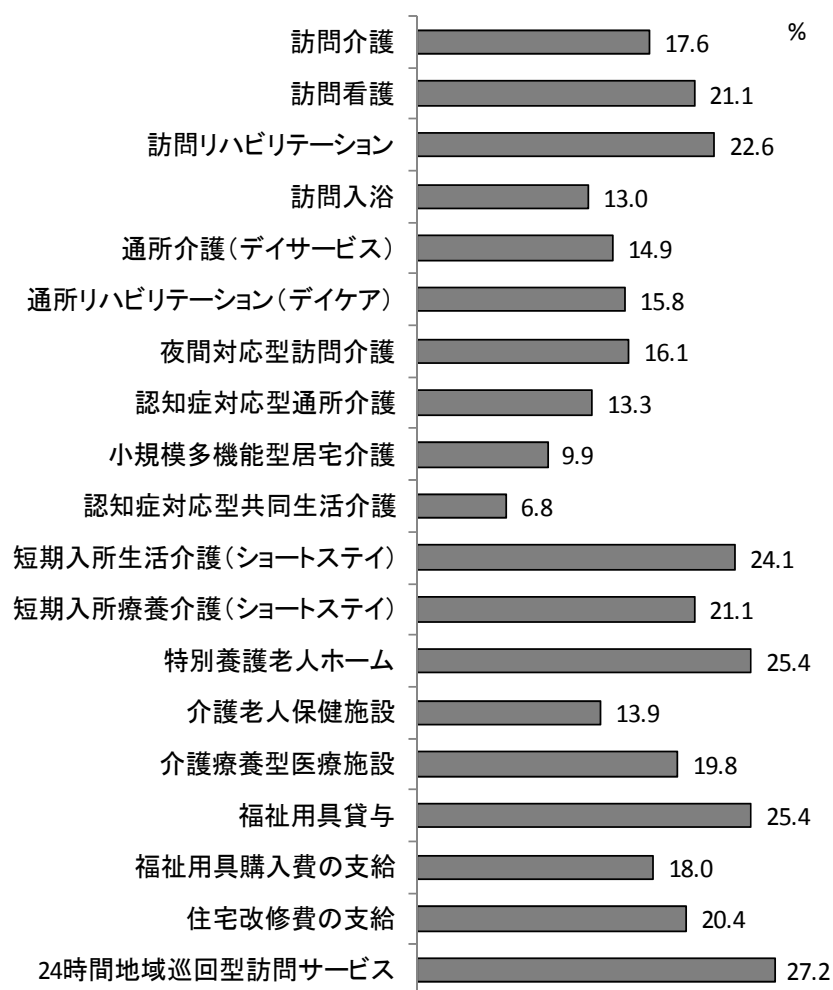


※上記のサービスは介護予防も含む

## 今後新たに利用してみたいサービス

今後新たに利用してみたいサービスでは、「24 時間地域巡回型訪問サービス (27.2%)」と回答した人が最も多く、続いて「特別養護老人ホーム (25.4%)」「福祉用具貸与 (25.4%)」の順であった (図表 2-61)。

図表 2-61 今後新たに利用してみたいサービス (複数回答) (N=323)



※上記のサービスは介護予防も含む

(3) 今後、今の住まいで暮らしたいか

問31 あなたは、これからも、今のお住まいで生活を続けたいと思いますか？  
(あてはまる番号に1つ)

今の自宅での生活の継続意向では、「ずっと自宅で生活を続けたい(48.6%)」と「可能な限り自宅で生活を続けたい(33.7%)」を合わせれば、「自宅で生活を続けたい」と回答した人は約8割であった(図表2-62)(図表2-63)。

(平成19年度との比較)

平成19年度調査では、自宅での生活を望む方は、「介護保険の範囲でサービスを利用して自宅で生活したい(46.4%)」「介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい(16.1%)」「主に家族の介護を受け、介護サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい(2.9%)」を合わせて、65.4%であった。

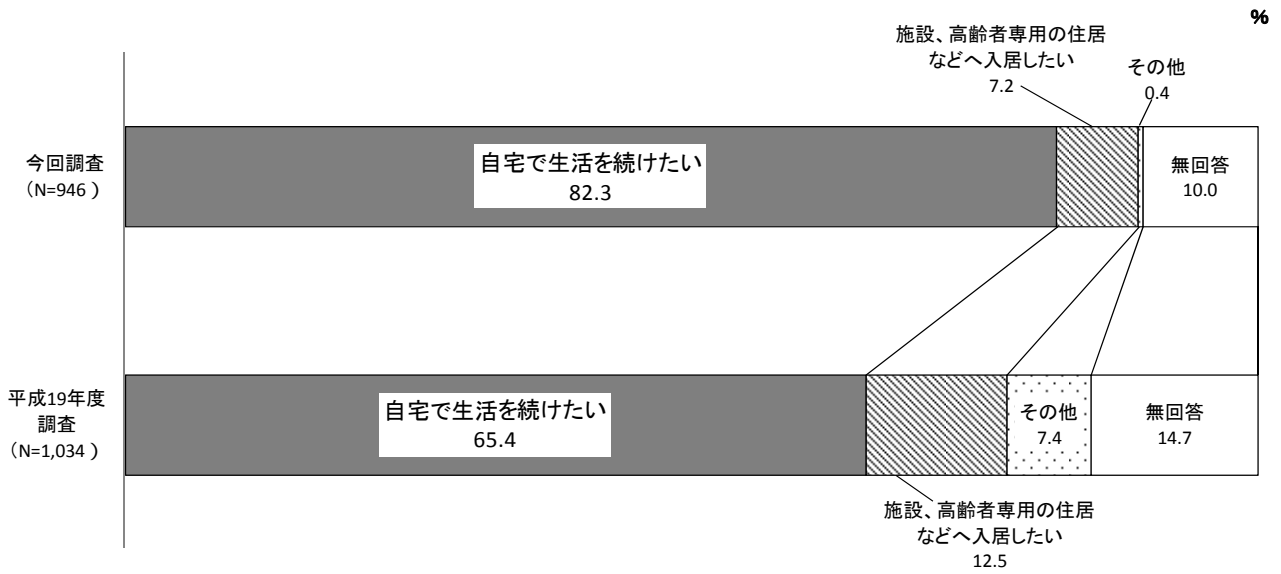
今回調査では、「ずっと自宅で生活を続けたい(48.6%)」と「可能な限り自宅で生活を続けたい(33.7%)」を合わせると82.3%と自宅での生活を望む方は、大幅に増加した(図表2-61)(図表2-63)。

図表2-62 これからも今の住まいで暮らしたいか(平成19年度調査との比較)

今回調査 (N=946)	%
ずっと自宅で生活を続けたい	48.6
可能な限り自宅で生活を続けたい	33.7
施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい	4.7
介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など)に入居したい	2.5
その他	0.4
無回答	10.0

平成19年度調査 (N=1,034)	%
介護保険の範囲でサービスを利用して自宅で生活したい	46.4
介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい	16.1
主に家族の介護を受け、介護サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい	2.9
特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい	9.7
有料老人ホームなどを利用したい	2.8
わからない	7.4
無回答	14.8

図表 2-63 これからも今の住まいで暮らしたいか（平成 19 年度調査との比較）



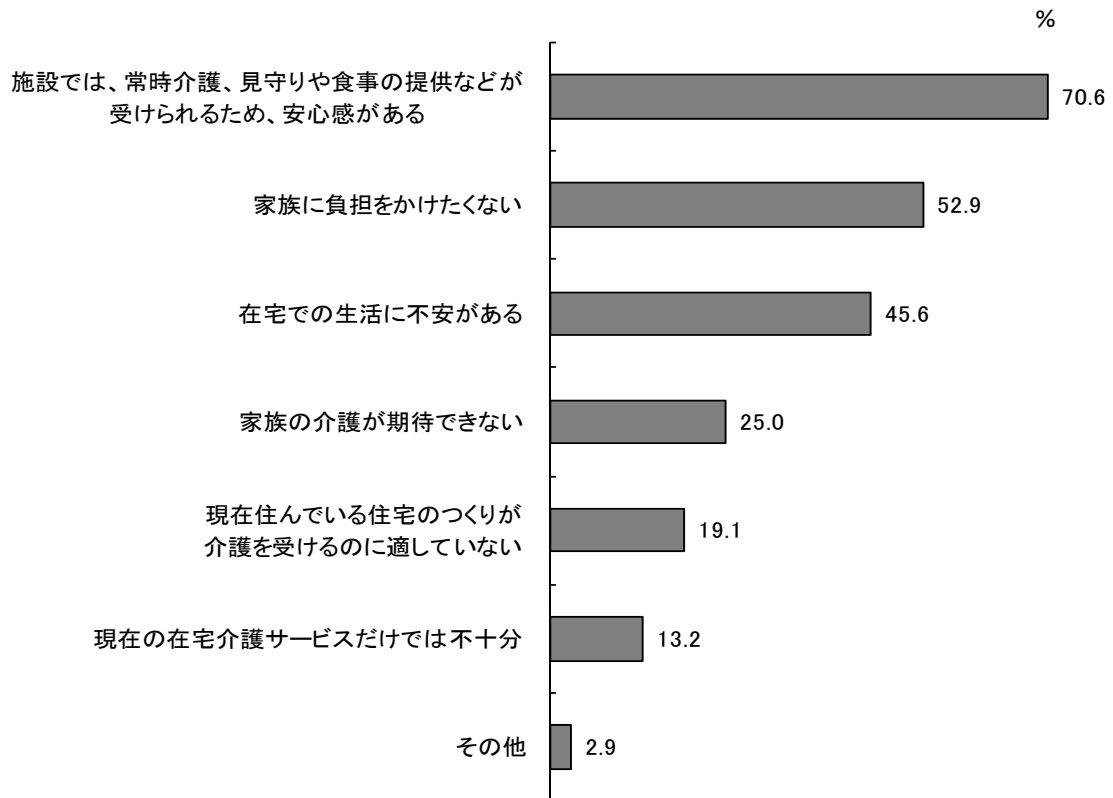
図表 2-64 これからも今の住まいで暮らしたいか（要介護度別）

		ずっと自宅で生活を続けたい	可能な限り自宅で生活を続けたい	施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい	介護、見守りや食事の提供などがついていない高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい	その他	合計 (%)
要介護度	要支援1 (N=209)	54.1	38.3	1.9	5.3	0.5	100.0
	要支援2 (N=151)	51.7	40.4	4.0	4.0	0.0	100.0
	要介護1 (N=141)	54.6	36.2	5.0	4.3	0.0	100.0
	要介護2 (N=131)	50.4	42.7	5.3	0.0	1.5	100.0
	要介護3 (N=78)	59.0	32.1	7.7	1.3	0.0	100.0
	要介護4 (N=58)	55.2	32.8	12.1	0.0	0.0	100.0
	要介護5 (N=54)	55.6	33.3	11.1	0.0	0.0	100.0

問 31-1 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに ）

施設や高齢者専用の住居に入居したい理由では、「施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられるため、安心感がある（70.6%）」と回答した人が約7割と最も多く、次いで「家族に負担をかけたくない（52.9%）」であった（図表 2-65）。

図表 2-65 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由（複数回答）(N=68)

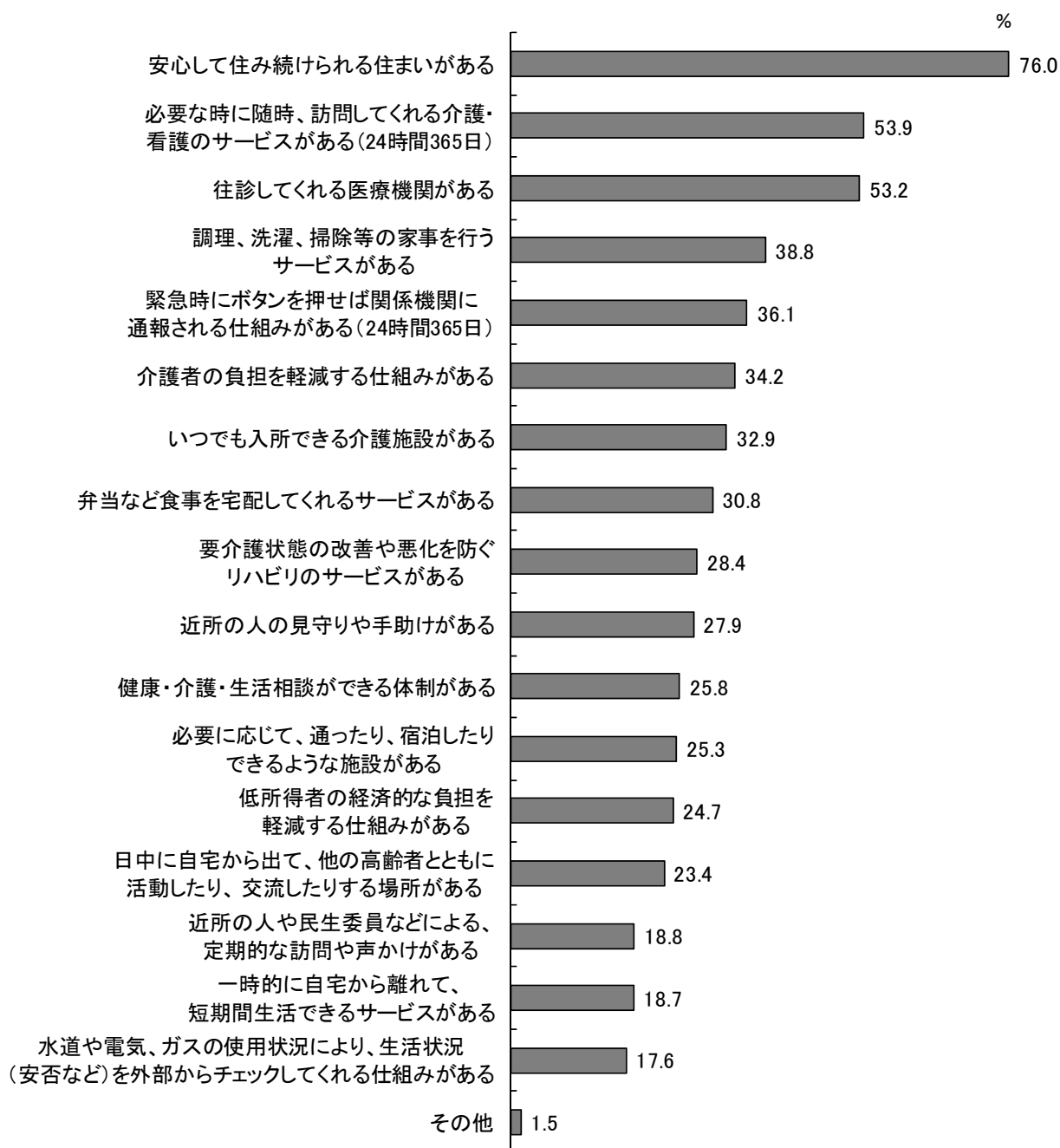


(4) 在宅で暮らし続けるために必要なこと

問 32 介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるためには、何が必要だと思いますか？  
(あてはまる番号すべてに )

介護が必要になった場合、在宅で暮らし続けるために必要なことでは、「安心して住み続けられる住まいがある(76.0%)」と回答した人が約8割と最も多く、続いて「必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある(24時間365日)(53.9%)」「往診してくれる医療機関がある(53.2%)」の順であった(図表2-66)。

図表 2-66 在宅で暮らし続けるために必要なこと(複数回答)(N=865)



図表 2-67 在宅で暮らし続けるために必要なこと（要介護度別 / 複数回答）

(%)

		安心して住み続けられる住まいがある	近所の人の見守りや手助けがある	（24時間365日） 看護のサービスがある	必要な時に随時、訪問してくれる介護・場所がある	日中に自宅から出て、他の高齢者とともに活動したり、交流したりする	要介護状態の改善や悪化を防ぐリハビリのサービスがある	一時的に自宅から離れて、短期間生活できるサービスがある	必要に応じて、通ったり、宿泊したりできるような施設がある	いつでも入所できる介護施設がある	往診してくれる医療機関がある
要介護度	要支援1 (N=209)	75.1	27.3	52.2	27.8	24.4	15.8	23.9	30.1	47.4	
	要支援2 (N=155)	75.5	24.5	44.5	25.8	24.5	12.9	16.8	27.1	48.4	
	要介護1 (N=141)	71.6	29.8	54.6	24.1	31.2	19.1	26.2	34.8	47.5	
	要介護2 (N=130)	78.5	32.3	56.9	24.6	40.8	23.1	28.5	38.5	56.9	
	要介護3 (N=82)	81.7	29.3	59.8	19.5	32.9	25.6	37.8	40.2	62.2	
	要介護4 (N=59)	74.6	25.4	66.1	16.9	25.4	23.7	30.5	35.6	67.8	
	要介護5 (N=55)	80.0	25.5	67.3	12.7	27.3	27.3	34.5	38.2	80.0	
		弁当など食事を宅配してくれるサービスがある	調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスがある	健康・介護・生活相談ができる体制がある	近所の人や民生委員などによる、定期的な訪問や声かけがある	水道や電気、ガスの使用状況により、生活状況（安否など）を外部からチェックしてくれる仕組みがある	（24時間365日） 緊急時にボタンを押せば関係機関に通報される仕組みがある	介護者の負担を軽減する仕組みがある	低所得者の経済的な負担を軽減する仕組みがある	その他	
要介護度	要支援1 (N=209)	35.4	45.5	23.9	23.9	21.5	38.3	25.4	21.1	0.5	
	要支援2 (N=155)	25.8	31.6	20.6	22.6	16.8	35.5	23.2	16.8	1.3	
	要介護1 (N=141)	29.1	39.0	27.0	15.6	12.1	31.9	35.5	25.5	1.4	
	要介護2 (N=130)	33.8	43.8	33.8	16.2	17.7	37.7	36.9	29.2	0.8	
	要介護3 (N=82)	29.3	39.0	26.8	18.3	24.4	43.9	53.7	31.7	4.9	
	要介護4 (N=59)	32.2	40.7	32.2	18.6	16.9	37.3	50.8	39.0	1.7	
	要介護5 (N=55)	21.8	29.1	25.5	12.7	12.7	27.3	52.7	29.1	3.6	



(5) 高齢者総合相談センターについての認知度

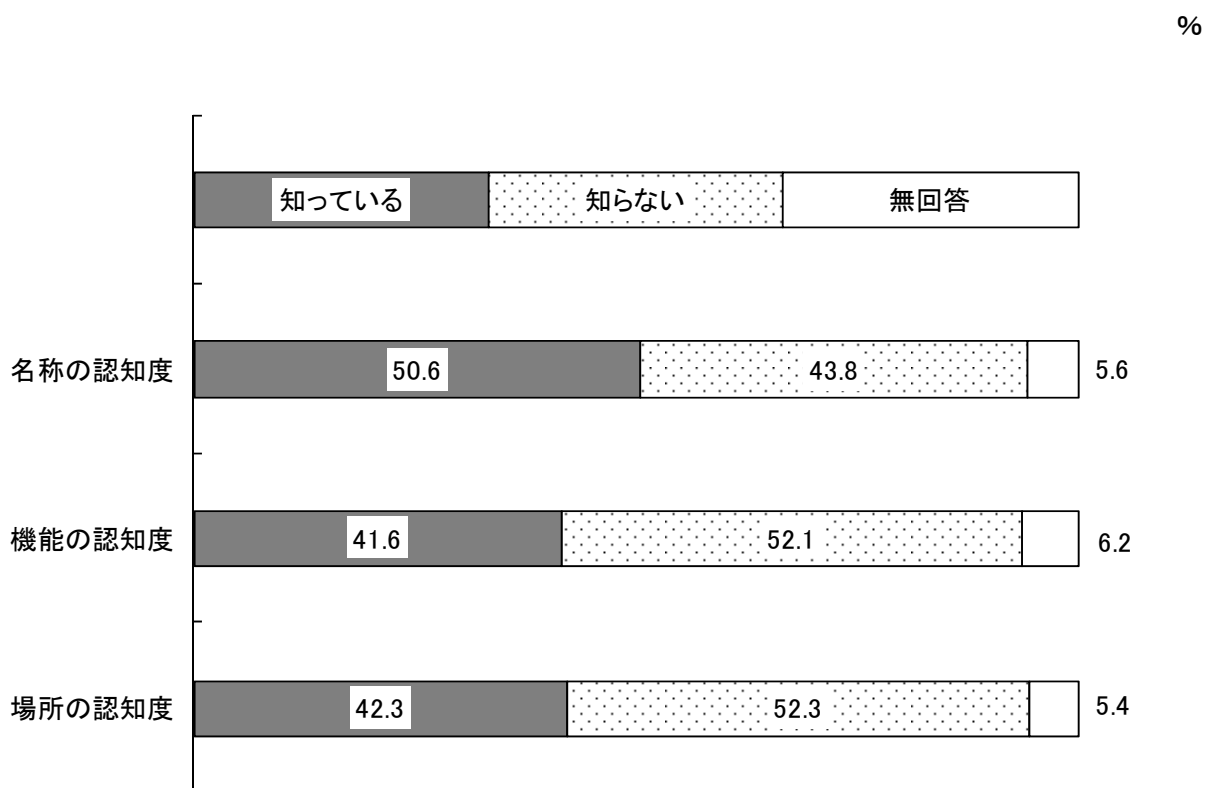
問 33-1 「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

問 33-2 「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

問 33-3 あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

高齢者総合相談センターについて、名称、機能、場所について「知らない」と回答した人は、それぞれ43.8%、52.1%、52.3%であった（図表 2-68）。

図表 2-68 高齢者総合相談センターの認知度（N=946）



## 10. 介護保険制度

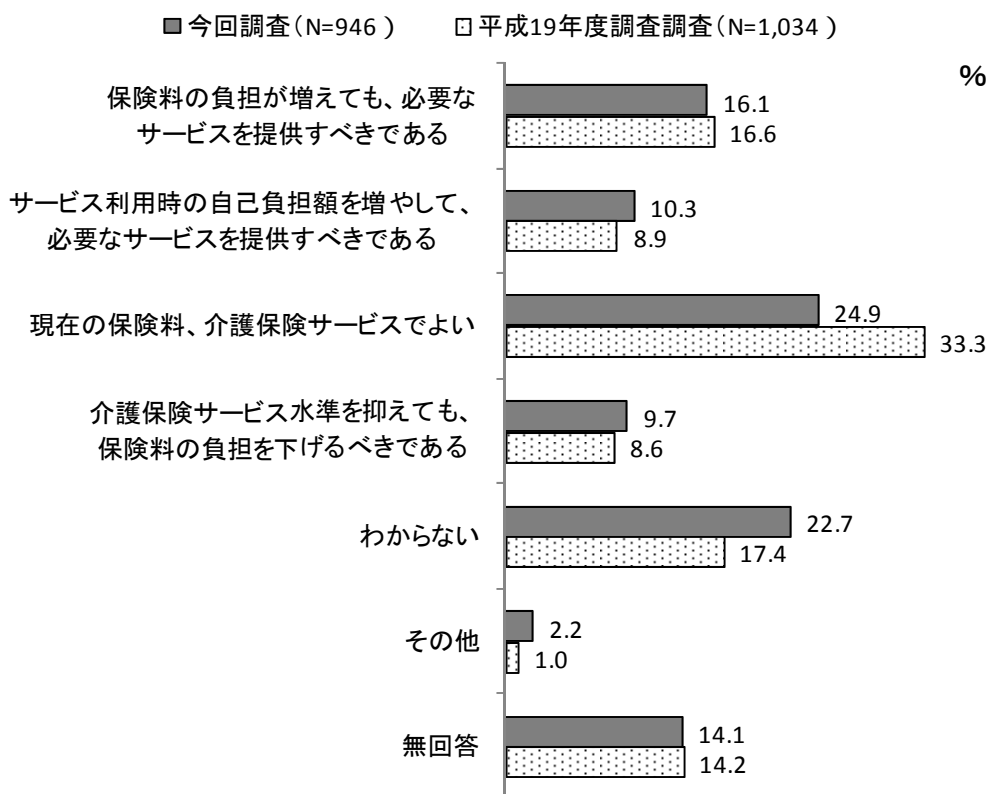
問 34 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに一番近いのはどれですか？  
(あてはまる番号に1つ)

介護保険のサービスと保険料についての考えでは、「現在の保険料、介護保険サービスでよい(24.9%)」と回答した人が最も多く、続いて「わからない(22.7%)」「保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである(16.1%)」の順であった(図表 2-69)。

(平成 19 年度調査との比較)

今回も平成 19 年度調査と同じく「現在の保険料、介護保険サービスでよい」が、最も多い回答ではあったが、平成 19 年度調査と比較すると、占率は 33.3%から 24.9%と大きく減少した。一方で、「わからない」が、17.4%から 22.7%に増加している(図表 2-69)。

図表 2-69 介護保険のサービスと保険料についての考え(平成 19 年度調査との比較)



図表 2-70 介護保険サービスと保険料についての考え（世帯年収別）

(%)

		保険料の負担が増えるべきである	サービス利用時の自己負担額を増やして、必要なサービスを提供すべきである	現在の保険料、介護保険サービスでよい	介護保険サービスの水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである	わからない	その他	合計
世帯の年収（税込）	80万円未満 (N=66)	16.7	1.5	31.8	15.2	30.3	4.5	100.0
	80万円以上200万円未満 (N=185)	15.7	8.6	25.9	15.1	33.0	1.6	100.0
	200万円以上300万円未満 (N=129)	19.4	10.1	25.6	15.5	24.8	4.7	100.0
	300万円以上500万円未満 (N=150)	22.7	13.3	33.3	8.0	20.7	2.0	100.0
	500万円以上 700万円未満 (N=70)	18.6	22.9	24.3	8.6	20.0	5.7	100.0
	700万円以上1000万円未満 (N=45)	24.4	13.3	28.9	4.4	24.4	4.4	100.0
	1000万円以上 (N=47)	23.4	19.1	42.6	4.3	10.6	0.0	100.0
	わからない (N=53)	11.3	15.1	35.8	9.4	28.3	0.0	100.0

## 11. 緊急時の避難など

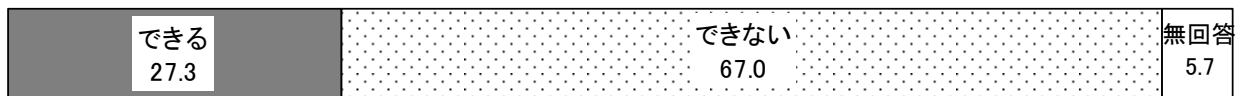
### (1) 災害時にひとりで避難できるか

問 35 あなたは、災害時や火災など緊急時に、ひとりで、避難できると思いますか？  
(あてはまる番号に1つ)

「できる」という人は27.3%であり、「できない」という人は67.0%であった(図表 2-71)。

図表 2-71 ひとりで避難できるか (N=946)

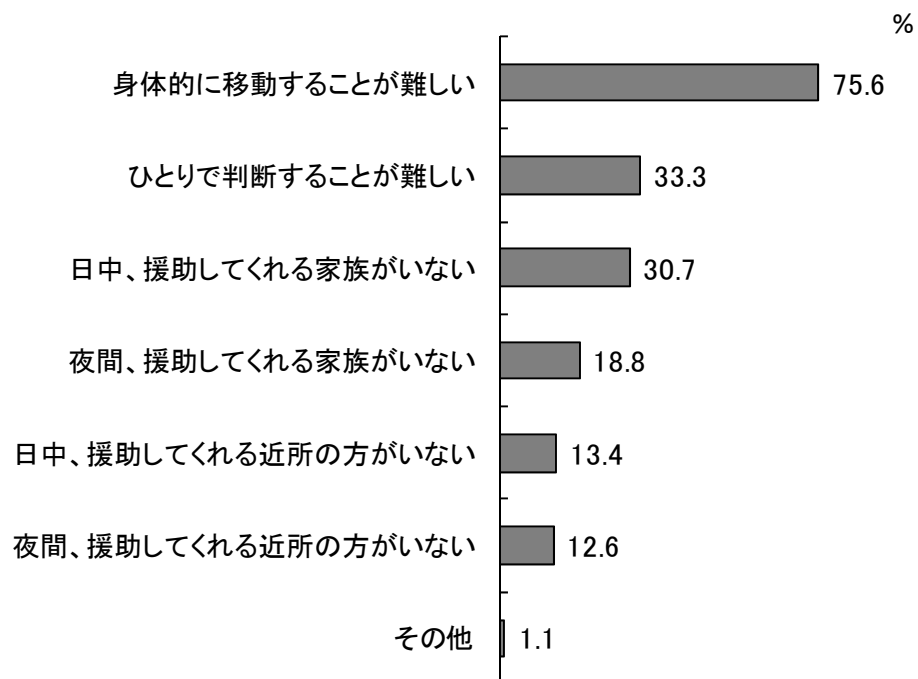
%



問 35-1 ひとりで避難できない理由は何ですか？(あてはまる番号すべてに)

問 35 で、ひとりで避難できないと回答した人に、その理由をたずねた。「身体的に移動することが難しい(75.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「ひとりで判断することが難しい(33.3%)」「日中、援助してくれる家族がいない(30.7%)」の順であった(図表 2-72)。

図表 2-72 ひとりで避難できない理由(複数回答)(N=618)

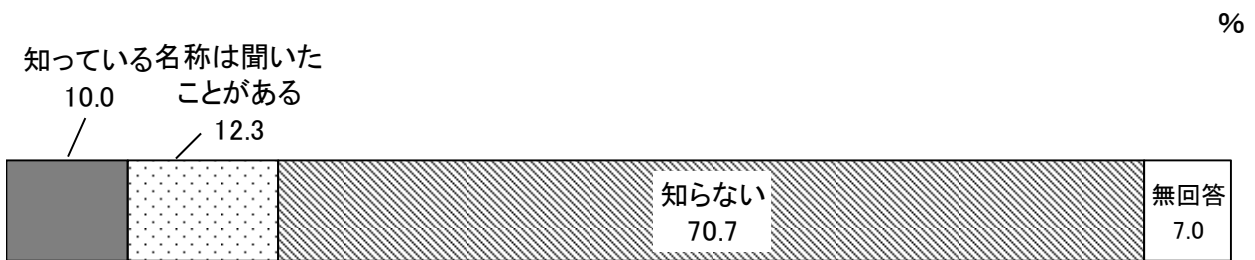


(2) 災害時要援護者登録名簿について

問 36 区では、高齢者の方など、災害発生時に自分の身を守ることが困難な方々を対象に、ご本人やご家族・ご親族からの申し出により、災害時要援護者登録名簿を作成しています。この名簿は、消防署、警察署や民生・児童委員等に配付し、救出救護や避難誘導に役立てます。あなたは、このような制度をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

災害時要援護者登録名簿について、「知らない(70.7%)」という人が約7割であった(図表2-73)。

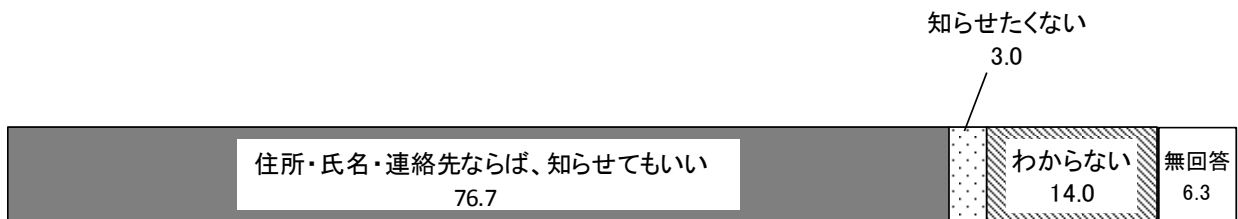
図表 2-73 災害時要援護者登録名簿の認知度 (N=946)



問 37 災害など緊急時に備えて、区役所、消防署、警察署や民生・児童委員等に、住所・氏名・連絡先などの情報を事前に知らせておくことについて、どう思いますか？（あてはまる番号に1つ）

災害などの緊急時に備えて、事前に情報を知らせておくことについて、「住所・氏名・連絡先ならば、知らせてもいい (76.7%)」と回答した人は、約8割であった (図表2-74)。

図表 2-74 災害時など緊急時に備えて、事前の情報登録への意向 (N=946)

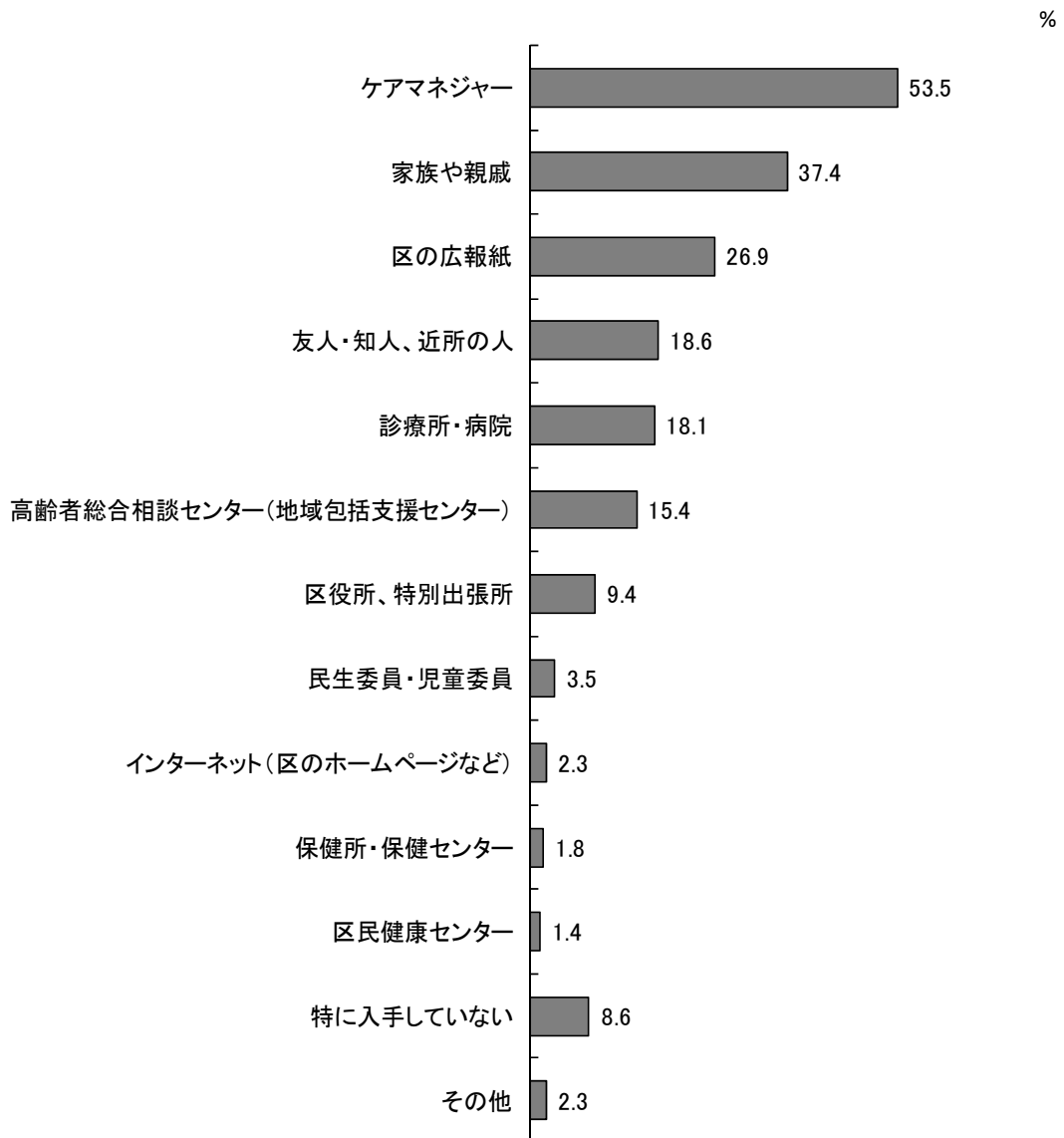


## 12. 情報入手

問 38 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか？  
(あてはまる番号すべてに )

健康や福祉サービスに関する情報の入手手段では、「ケアマネジャー（53.5%）」が最も高く、続いて「家族や親戚（37.4%）」「区の広報紙（26.9%）」「友人・知人、近所の人（18.6%）」の順であった。一方「特に入手していない」と回答した人は8.6%であった（図表2-75）。

図表 2-75 健康や福祉サービスに関する情報入手手段（複数回答）(N=875)



### 13. 介護者のこと

#### 介護者の方におたずねします

#### (1) 性別

問 39 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

回答者は、「男性（31.9%）」が約3割、「女性（68.1%）」が約7割であった（図表2-76）。

図表 2-76 介護者の性別（N=496）

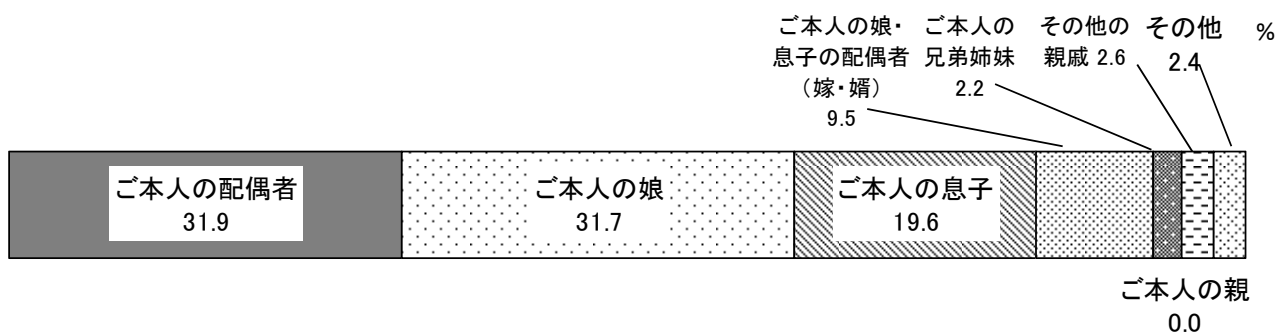


#### (2) 調査対象者（ご本人）との関係

問 40 あなたと調査対象者(ご本人)との関係はどれですか？（あてはまる番号に1つ）

調査対象者（ご本人）との関係をたずねたところ、「ご本人の配偶者（31.9%）」、「ご本人の娘（31.7%）」、「ご本人の息子（19.6%）」、「ご本人の娘・息子の配偶者（9.5%）」の順であった（図表2-77）。

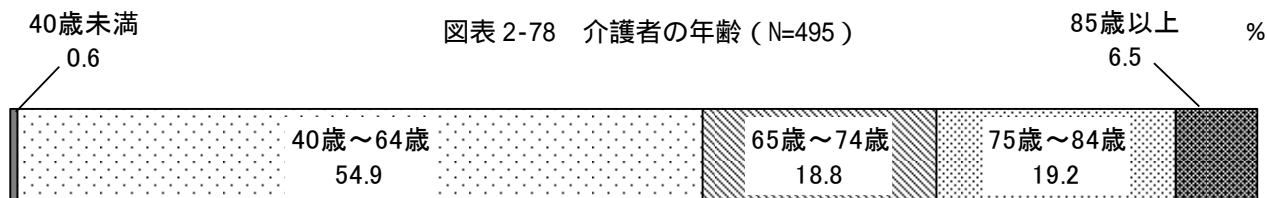
図表 2-77 調査対象者との関係（N=495）



### (3) 年齢

問 41 あなたはおいくつですか？ 平成 22 年 11 月 1 日現在の年齢でお答えください。

回答者の年齢構成を見ると、「40 歳～64 歳 (54.9%)」が 5 割以上であるが、「75 歳以上」も 25.7%であった (図表 2-78)。



図表 2-79 介護者の年齢 (調査対象者との続柄別)

		40歳未満	40歳～64歳	65歳～74歳	75歳～84歳	85歳以上	合計
調査対象者との続柄	ご本人の配偶者 (N=158)	0.0	5.7	24.1	51.9	18.4	100.0
	ご本人の娘 (N=157)	0.6	84.7	14.0	0.6	0.0	100.0
	ご本人の息子 (N=97)	1.0	81.4	17.5	0.0	0.0	100.0
	ご本人の娘・息子の配偶者(嫁・婿) (N=47)	0.0	66.0	25.5	6.4	2.1	100.0
	ご本人の兄弟姉妹 (N=11)	0.0	9.1	18.2	63.6	9.1	100.0
	その他の親戚 (N=13)	0.0	84.6	0.0	7.7	7.7	100.0
	その他 (N=12)	8.3	66.7	16.7	8.3	0.0	100.0



(4) 介護期間

問 42 あなたは、調査対象者（ご本人）を、何年介護していますか？（あてはまる番号に1つ）

介護期間は、「1年以上3年未満（24.0%）」「5年以上10年未満（23.2%）」「3年以上5年未満（20.2%）」がそれぞれ2割を超えて多いが、「10年以上」と回答した人も17.2%であった（図表2-80）。

図表 2-80 介護期間（N=495）

%

1年未満 9.7	1年以上3年未満 24.0	3年以上5年未満 20.2	5年以上10年未満 23.2	10年以上 17.2	無回答 5.7
-------------	------------------	------------------	-------------------	---------------	------------

図表 2-81 介護期間（要介護度別）

(%)

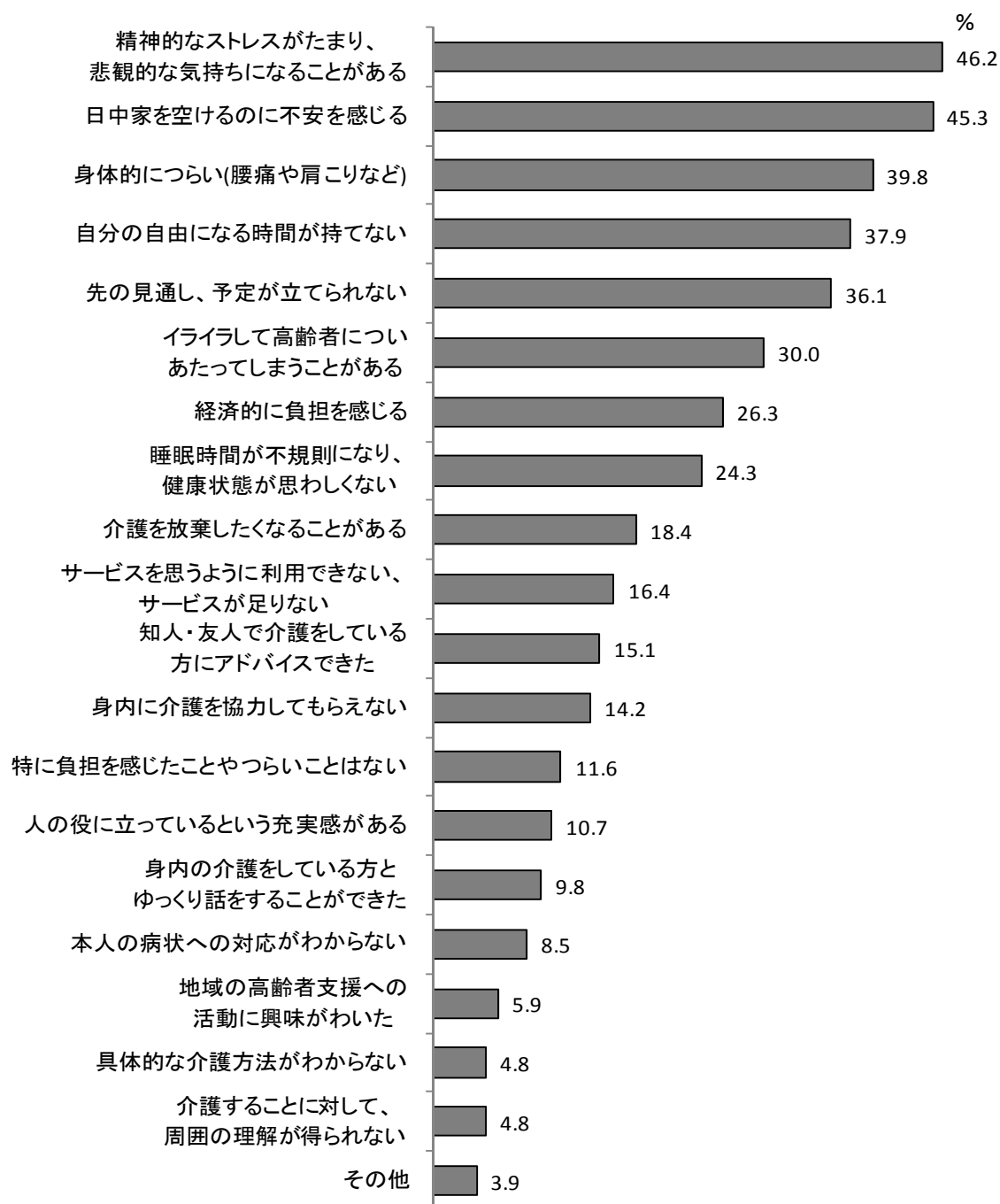
		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上	合計
要 介 護 度	要支援1 (N=48)	12.5	29.2	29.2	18.8	10.4	100.0
	要支援2 (N=58)	13.8	25.9	25.9	17.2	17.2	100.0
	要介護1 (N=91)	12.1	38.5	24.2	13.2	12.1	100.0
	要介護2 (N=87)	12.6	20.7	25.3	31.0	10.3	100.0
	要介護3 (N=68)	7.4	16.2	16.2	32.4	27.9	100.0
	要介護4 (N=55)	1.8	25.5	14.5	27.3	30.9	100.0
	要介護5 (N=55)	5.5	21.8	12.7	36.4	23.6	100.0

## (5) 介護をされていて感じたこと

問 43 あなたが、介護をされていて感じたことは何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

「精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある（46.2%）」が最も多く、続いて「日中家を空けるのに不安を感じる（45.3%）」「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）（39.8%）」「自分の自由になる時間が持てない（37.9%）」「先の見通し、予定が立てられない（36.1%）」「イライラして高齢者についあたってしまうことがある（30.0%）」の順であった（図表 2-82）。

図表 2-82 介護をされていて感じたこと（複数回答）(N=457)



図表 2-83 介護をされていて感じたこと（介護を要する原因別）

(%)

		人の役に立っているという充実感がある	身の回り介護をしている方がゆとり話をする事ができた	友人・友人で介護をしている方にアドバイスできた	地域の高齢者支援への活動に興味があった	身体的につらい（腰痛や肩こりなど）	精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある	睡眠時間が不規則になり、健康状態が思わしくない	しまうことがある	介護を放棄したくなることもある	日中家を空けるのに不安を感じる
介護を要する原因	脳血管疾患 (N=77)	14.3	10.4	18.2	6.5	44.2	36.4	20.8	27.3	18.2	45.5
	骨折・転倒 (N=52)	3.8	5.8	23.1	9.6	48.1	40.4	32.7	30.8	17.3	40.4
	高齢による衰弱 (N=43)	16.3	14.0	14.0	9.3	34.9	41.9	20.9	18.6	11.6	32.6
	心臓病 (N=15)	26.7	20.0	26.7	6.7	53.3	26.7	33.3	6.7	26.7	66.7
	関節の病気 (N=14)	7.1	14.3	7.1	14.3	21.4	14.3	7.1	14.3	7.1	21.4
	認知症 (N=75)	8.0	9.3	24.0	8.0	42.7	64.0	30.7	38.7	22.7	52.0
	難病(パーキンソン病等) (N=13)	7.7	0.0	0.0	0.0	53.8	38.5	23.1	46.2	7.7	38.5
	がん(悪性新生物) (N=3)	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	呼吸器疾患 (N=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	糖尿病 (N=7)	14.3	14.3	14.3	0.0	42.9	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6
	脊髄損傷 (N=11)	9.1	9.1	18.2	0.0	54.5	54.5	36.4	54.5	36.4	63.6
	視覚・聴覚障害 (N=5)	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	40.0
	不明 (N=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	50.0
その他 (N=23)	8.7	13.0	26.1	4.3	34.8	52.2	13.0	39.1	26.1	56.5	

		自分の自由になる時間が持てない	サービスが足りない	得られない	介護することに対して、周囲の理解が	身内に介護を協力してもらえない	具体的な介護方法がわからない	本人の病状への対応がわからない	先の見通し、予定が立てられない	経済的に負担を感じる	特に負担を感じたことやつらいことはない	その他
介護を要する原因	脳血管疾患 (N=77)	36.4	18.2	3.9	11.7	6.5	13.0	36.4	33.8	16.9	2.6	
	骨折・転倒 (N=52)	38.5	19.2	3.8	19.2	9.6	7.7	32.7	25.0	13.5	1.9	
	高齢による衰弱 (N=43)	44.2	7.0	0.0	14.0	0.0	2.3	20.9	11.6	18.6	7.0	
	心臓病 (N=15)	40.0	13.3	6.7	13.3	0.0	6.7	26.7	40.0	6.7	0.0	
	関節の病気 (N=14)	14.3	0.0	7.1	7.1	14.3	21.4	21.4	0.0	21.4	0.0	
	認知症 (N=75)	42.7	18.7	9.3	20.0	5.3	5.3	41.3	24.0	6.7	8.0	
	難病(パーキンソン病等) (N=13)	30.8	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7	53.8	0.0	7.7	7.7	
	がん(悪性新生物) (N=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	
	呼吸器疾患 (N=3)	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	
	糖尿病 (N=7)	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0	
	脊髄損傷 (N=11)	54.5	27.3	9.1	27.3	9.1	9.1	45.5	27.3	0.0	0.0	
	視覚・聴覚障害 (N=5)	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	
	不明 (N=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	
その他 (N=23)	43.5	21.7	4.3	4.3	8.7	13.0	34.8	30.4	4.3	0.0		

図表 2-84 介護をしていて感じたこと（治療中の病気別）

(%)

		人の役に立っているという充実感がある	身の介護をしてくれる方ができたり話をするのができた	友人・友人で介護をしている方にアドバイスできた	地域の高齢者支援への活動に興味があった	身体的につらい（腰痛や肩こりなど）	精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある	睡眠時間が不規則になり、健康状態が思わしくない	しまうことがあがる	介護を放棄したくなることもある	日中家を空けるのに不安を感じる
治療中の病気	高血圧症 (N=162)	8.6	9.3	14.2	5.6	31.5	43.2	23.5	29.6	16.0	43.2
	高脂血症 (N=43)	11.6	16.3	18.6	2.3	39.5	46.5	32.6	30.2	23.3	39.5
	脳血管疾患 (N=79)	15.2	11.4	15.2	3.8	45.6	40.5	26.6	25.3	20.3	50.6
	心臓病 (N=83)	14.5	13.3	15.7	7.2	38.6	41.0	31.3	24.1	22.9	49.4
	がん(悪性新生物) (N=29)	13.8	24.1	17.2	6.9	44.8	51.7	27.6	31.0	20.7	44.8
	糖尿病 (N=64)	9.4	14.1	15.6	3.1	37.5	50.0	26.6	31.3	23.4	46.9
	骨折・骨粗しょう症 (N=74)	8.1	9.5	12.2	5.4	32.4	39.2	16.2	29.7	16.2	40.5
	関節の病気 (N=48)	12.5	10.4	10.4	4.2	37.5	41.7	18.8	33.3	16.7	39.6
	難病(パーキンソン病等) (N=25)	12.0	8.0	0.0	0.0	52.0	52.0	24.0	36.0	12.0	52.0
	眼科疾患 (N=72)	11.1	11.1	6.9	2.8	47.2	45.8	18.1	29.2	12.5	44.4
	認知症 (N=118)	8.5	13.6	16.9	6.8	49.2	59.3	32.2	38.1	26.3	52.5
	うつ病 (N=20)	0.0	10.0	5.0	0.0	20.0	45.0	10.0	30.0	15.0	40.0
	うつ病以外の精神科疾患 (N=6)	16.7	33.3	33.3	16.7	33.3	66.7	16.7	33.3	50.0	33.3
その他 (N=74)	12.2	2.7	14.9	4.1	39.2	50.0	20.3	43.2	17.6	54.1	

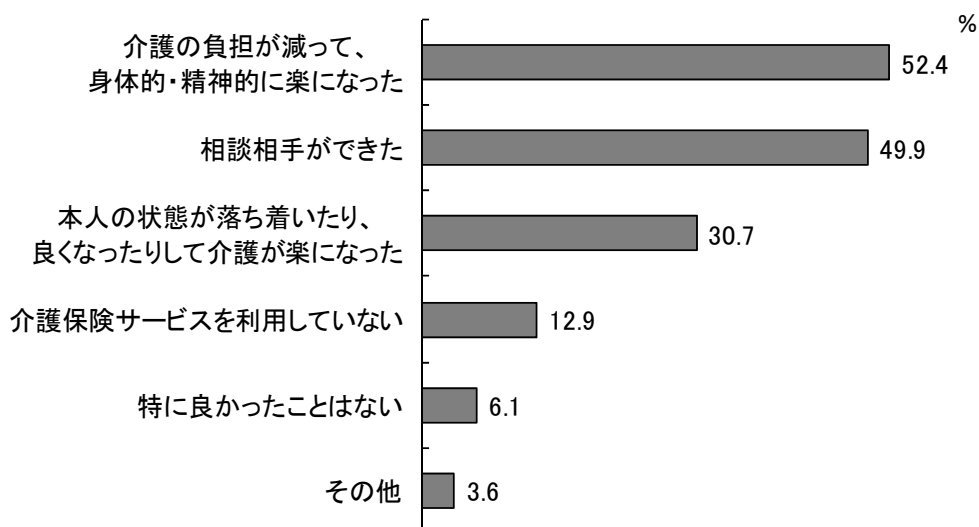
		自分の自由になる時間が持てない	サービスが思うように利用できない、	得られない	介護することに対して、周囲の理解が	身内に介護を協力してもらえない	具体的な介護方法がわからない	本人の病状への対応がわからない	先の見通し、予定が立てられない	経済的に負担を感じる	特に負担を感じたことやつらいことはない	その他
治療中の病気	高血圧症 (N=162)	36.4	19.1	4.3	14.2	5.6	9.3	34.6	22.8	14.2	3.7	
	高脂血症 (N=43)	41.9	25.6	2.3	18.6	9.3	25.6	41.9	27.9	11.6	7.0	
	脳血管疾患 (N=79)	43.0	21.5	3.8	13.9	7.6	12.7	38.0	39.2	16.5	1.3	
	心臓病 (N=83)	37.3	21.7	6.0	9.6	4.8	8.4	34.9	31.3	12.0	1.2	
	がん(悪性新生物) (N=29)	27.6	24.1	0.0	13.8	3.4	6.9	37.9	20.7	3.4	3.4	
	糖尿病 (N=64)	42.2	25.0	4.7	15.6	4.7	9.4	40.6	32.8	3.1	3.1	
	骨折・骨粗しょう症 (N=74)	39.2	17.6	2.7	13.5	5.4	10.8	31.1	25.7	12.2	2.7	
	関節の病気 (N=48)	35.4	6.3	4.2	14.6	2.1	12.5	31.3	18.8	14.6	2.1	
	難病(パーキンソン病等) (N=25)	32.0	16.0	4.0	12.0	4.0	12.0	56.0	24.0	4.0	4.0	
	眼科疾患 (N=72)	38.9	23.6	5.6	15.3	6.9	6.9	38.9	22.2	12.5	2.8	
	認知症 (N=118)	47.5	20.3	8.5	16.1	2.5	9.3	45.8	27.1	6.8	5.9	
	うつ病 (N=20)	35.0	15.0	0.0	5.0	0.0	10.0	25.0	20.0	10.0	0.0	
	うつ病以外の精神科疾患 (N=6)	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	
その他 (N=74)	48.6	24.3	4.1	16.2	2.7	8.1	41.9	32.4	10.8	1.4		

(6) 介護保険サービスを利用して良かったこと

問 44 介護保険サービスを利用して、良かったことは何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

「介護の負担が減って、身体的・精神的に楽になった（52.4%）」と回答した人が最も多く、次いで「相談相手ができた（49.9%）」であった（図表 2-85）。

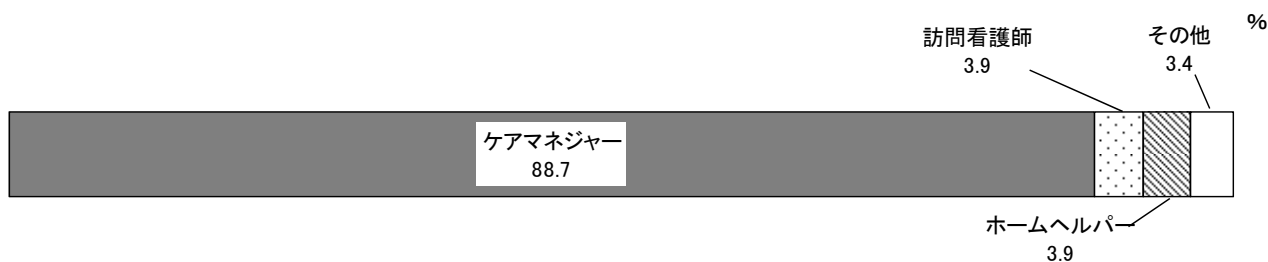
図表 2-85 介護保険サービスを利用して良かったこと（複数回答）(N=443)



問 44-1 相談相手はどなたですか？（あてはまる番号に1つ ）

問 44 で、「相談相手ができた」と回答した人にたずねた。相談相手では「ケアマネジャー（88.7%）」が約 9 割と最も多かった（図表 2-86）。

図表 2-86 相談相手 (N=203)

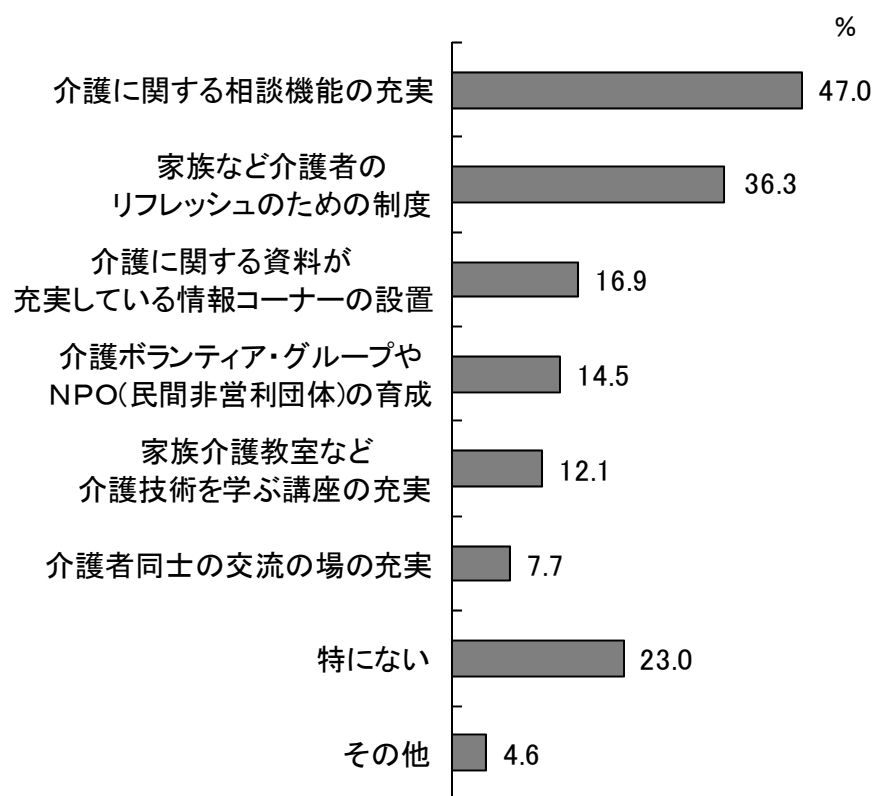


(7) 介護者への支援として新宿区に力を入れてほしいこと

問 45 介護者(あなた)への支援として、新宿区に力を入れてほしいことは、何ですか？  
(あてはまる番号すべてに )

介護者(あなた)への支援として、新宿区に力を入れてほしいことは、「介護に関する相談機能の充実(47.0%)」が最も多く、続いて「家族など介護者のリフレッシュのための制度(36.3%)」「介護に関する資料が充実している情報コーナーの設置(16.9%)」の順であった(図表 2-87)。

図表 2-87 介護者への支援として、新宿区に力を入れてほしいこと(複数回答)(N=413)



(8) こころの健康状況

問 46 最近 2 週間の、あなたの心の状況は、いかがですか？（あてはまる番号に 1 つ）

各項目に対する回答は次の通りであった。

こころの健康状態に関するすべての質問に「いいえ」と回答した人（「はい」と回答した数が 0 個）は、25.9%であった（図表 2-88）。

		1. はい	2. いいえ	無回答
① 毎日の生活に充実感がない。	(N=495)	32.5%	59.5%	8.1%
② これまで楽しんでやれていたことが、楽しめなくなった。	(N=495)	36.0%	56.8%	7.3%
③ 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。	(N=495)	52.5%	41.2%	6.3%
④ 自分は役に立つ人間だと思えない。	(N=495)	16.2%	75.6%	8.3%
⑤ わけもなく疲れたような感じがする。	(N=495)	55.2%	38.4%	6.5%

図表 2-88 こころの健康状況（5 項目に「はい」と回答した数の合計）(N=437)

	0個	1個	2個	3個	4個	5個
合計	25.9	19.7	16.2	12.8	17.2	8.2

(9) 調査対象者（ご本人）の認知症の有無、相談先

問 47 あなたが介護をしている方（ご本人）には、認知症の症状がありますか？  
（あてはまる番号に 1 つ）

調査対象者（ご本人）の認知症の症状について、「ある」と回答した人は 45.1%であった（図表 2-89）。

図表 2-89 調査対象者の認知症の有無 (N=495)



図表 2-90 調査対象者の認知症の有無  
(認知症の支援体制の充実に必要なこと別 / 介護をしていて感じたこと別) (%)

		ある	ない	合計
認知症の支援体制の充実に必要なこと	認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする (N=224)	49.1	50.9	100.0
	かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること (N=235)	48.9	51.1	100.0
	かかりつけ医と専門医の連携体制の充実 (N=151)	49.0	51.0	100.0
	身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること (N=178)	48.3	51.7	100.0
	認知症予防教室・講座の充実 (N=59)	59.3	40.7	100.0
	認知症のチェック票などを用いて早期発見できる体制の整備 (N=143)	51.7	48.3	100.0
	支援のための相談窓口の充実 (N=122)	50.8	49.2	100.0
	認知症サポーターが地域に増えること (N=111)	61.3	38.7	100.0
	わからない (N=55)	36.4	63.6	100.0
	その他 (N=4)	100.0	0.0	100.0
介護をしていて感じたこと	人の役に立っているという充実感がある (N=46)	39.1	60.9	100.0
	身内の介護をしている方とゆっくり話をする事ができた (N=43)	48.8	51.2	100.0
	知人・友人で介護をしている方にアドバイスできた (N=66)	47.0	53.0	100.0
	地域の高齢者支援への活動に興味があった (N=26)	42.3	57.7	100.0
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど) (N=180)	57.2	42.8	100.0
	精神的なストレスがたまり、悲観的な気持ちになることがある (N=208)	61.5	38.5	100.0
	睡眠時間が不規則になり、健康状態が思わしくない (N=109)	61.5	38.5	100.0
	イライラして高齢者についあたってしまうことがある (N=134)	62.7	37.3	100.0
	介護を放棄したくなることもある (N=82)	65.9	34.1	100.0
	日中家を空けるのに不安を感じる (N=202)	55.0	45.0	100.0
	自分の自由になる時間が持てない (N=171)	57.3	42.7	100.0
	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない (N=74)	54.1	45.9	100.0
	介護することに対して、周囲の理解が得られない (N=22)	77.3	22.7	100.0
	身内に介護を協力してもらえない (N=64)	62.5	37.5	100.0
	具体的な介護方法がわからない (N=22)	45.5	54.5	100.0
	本人の病状への対応がわからない (N=38)	52.6	47.4	100.0
	先の見通し、予定が立てられない (N=163)	58.3	41.7	100.0
	経済的に負担を感じる (N=118)	56.8	43.2	100.0
	特に負担を感じたことやつらいことはない (N=51)	23.5	76.5	100.0
	その他 (N=18)	66.7	33.3	100.0



問 47-1 認知症の介護について、家族以外の、誰に相談していますか？  
 (あてはまる番号すべてに )

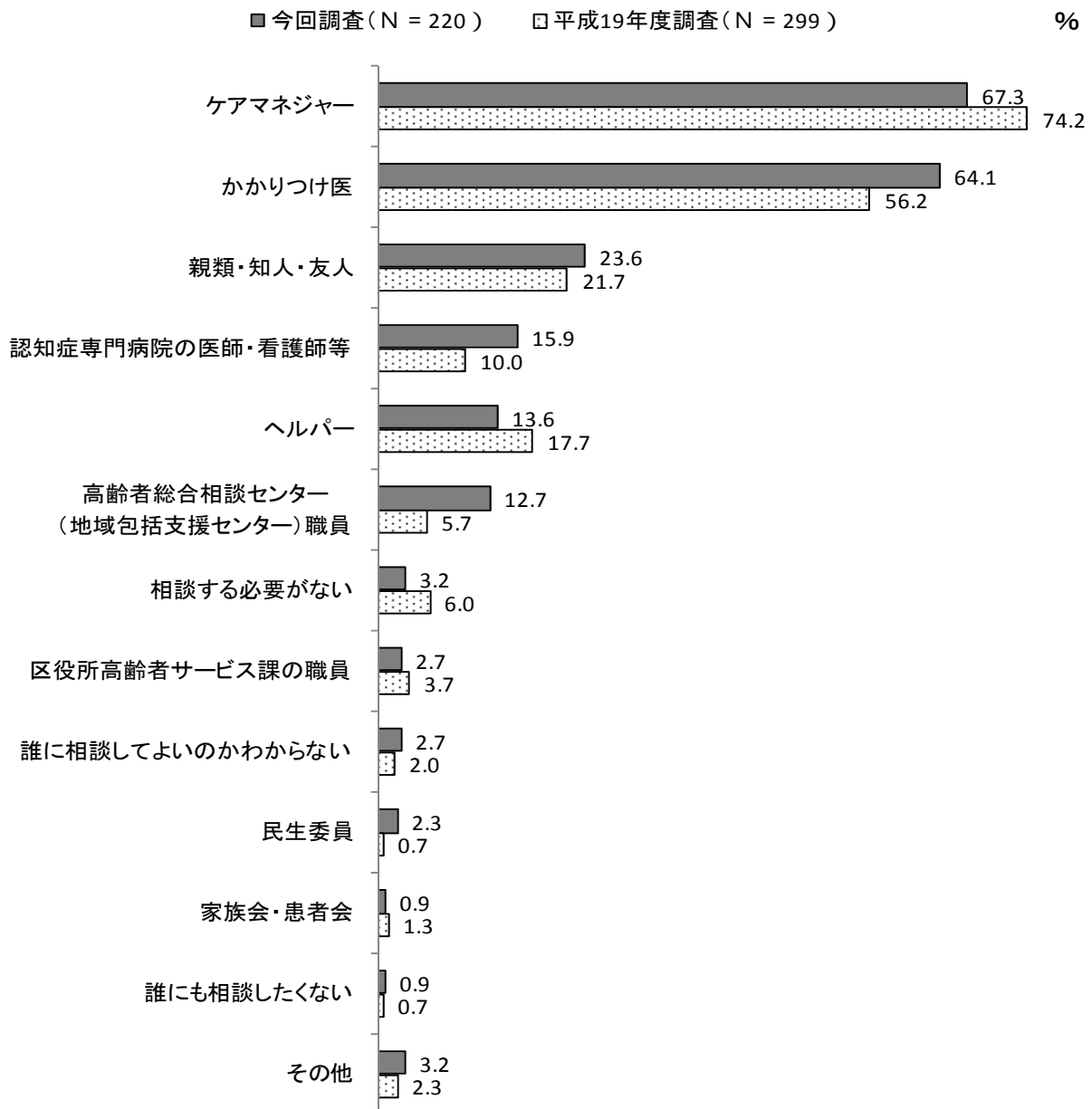
認知症の介護についての相談者では、「ケアマネジャー (67.3%)」が最も多く、次いで「かかりつけ医 (64.1%)」であった (図表 2-91)。

※なお、選択肢の「保健所・保健センター」は 0.0%であった。

(平成 19 年度調査との比較)

今回調査でも「ケアマネジャー (67.3%)」が最も多かったが、平成 19 年度調査と比較すると、「かかりつけ医」が 56.2%から 64.1%、「高齢者総合相談センター (地域包括支援センター) 職員」が、5.7%から 12.7%と大幅に増加した (図表 2-91)。

図表 2-91 認知症介護について、家族以外のだれと相談しているか (平成 19 年度調査との比較 / 複数回答)



図表 2-92 調査対象者の認知症の有無  
 (介護者の支援として区に力を入れてほしいこと別)

(%)

		ある	ない	合計
区に力を入れてほしいこと	介護に関する相談機能の充実 (N=192)	46.4	53.6	100.0
	家族など介護者のリフレッシュのための制度 (N=146)	56.2	43.8	100.0
	家族介護教室など介護技術を学ぶ講座の充実 (N=48)	50.0	50.0	100.0
	介護者同士の交流の場の充実 (N=32)	50.0	50.0	100.0
	介護に関する資料が充実している情報コーナーの設置 (N=68)	48.5	51.5	100.0
	介護ボランティア・グループやNPO(民間非営利団体)の育成 (N=59)	49.2	50.8	100.0
	特にない (N=92)	39.1	60.9	100.0
	その他 (N=19)	52.6	47.4	100.0

## 自由記述から（居宅サービス利用者）

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区への要望・ご意見が240件あった。主な内容は以下のとおりである。

### 住まいに関すること（3件）

- ・安心して住んでいられる場所が欲しい。
- ・都営住宅の入居等、情報提供。

### 介護保険制度・介護保険サービスについて（138件）

- ・施設を増やしてほしい。
- ・有料ホームは高すぎる。公的ホームを入りやすくしてほしい。
- ・ユニット型は料金が高すぎる。従来の特養があってもいいのではないか。
- ・現在、介護老人福祉施策への入所申請をしていますが順位がまわってこず経済的な不安を感じています。
- ・施設に入所させていただき本当に助かっています。
- ・介護保険料が高い。
- ・年金暮らしには介護保険料、ヘルパーさん支払い分、もう少し気持ちだけでよいからお安くしてもらえるといいなと勝手なことを思っております。
- ・要介護認定の方法の改善が必要。
- ・要介護2が1にされてしまったが、その際の判定方法に不満がある。デイケアを週2回から1回に減らされたため、体力の低下、外出回数の減少などが見られる。
- ・外見だけでなく、その人の生き方などからも要介護度を決めるべきだと思う。
- ・要介護のサービスを受けたくても、調査員の判断で要支援と決められてしまうのは納得いきません。希望するサービスをいつでも受けられる環境を作って欲しい。
- ・同居者がいる場合の生活支援のあり方をもう少し柔軟に対応できるようにしてほしい。高齢者夫婦にとって、他人が家に入ることの抵抗感と、いざ家事に手伝いが必要なときに手伝ってもらえる便利さのバランスを取りながら保険が使える環境が整うと良い。
- ・同居者が働いていても家事をしてもらえるようにしてほしい。
- ・要支援は家族がいる者といない者のサービスがあまりにも差がありすぎて大変困っています。
- ・栄養指導の訪問利用を出来るようにしてほしい。
- ・90歳を越えたら、介護度は軽くしないで、現状維持するためにもサービスを利用させて欲しい。
- ・要介護1で、掃除の支援が受けられない。こちらがしてほしい支援を多少費用がかかってもしただけなら良いと存じます。
- ・住宅改修費は1割の金額を振り込めば良いようにしてください。
- ・見守りをお願いしたい時、1時間は介護保険が使える。あとは無理とのこと。なんとか3時間ぐらい見てもらいたい。
- ・女房が認知症のため（ヘルパーが介護に来てくれていますが1日1時間～2時間ぐらいですのので私一人で介護しています）私自身障害者1級のため思うように介護ができません。何とかルール改訂が出来ないものですか。
- ・区報に介護関係の記事を充実してほしい。

### ヘルパーなど人材育成や待遇に関すること（6件）

- ・ヘルパーへの指導・教育をしっかりして欲しい。
- ・介護従事者の処遇改善を図り、雇用安定を促進して欲しい。
- ・ヘルパーとして登録している人数と実働数にかなり差があるのではないのでしょうか。ヘルパー事業者への雇用安定の助言、サポート、ヘルパーの育成が必要。

### 医療などに関すること（17件）

- ・医療費が高い。
- ・後期高齢者医療保険料の負担が大きい。
- ・お医者様の往診は、とてもありがたく思います。
- ・往診してくれる医者がないので教えてほしい。
- ・長期に入院できる病院が必要。
- ・病院の充実化とリハビリ施設を多く利用出来るような「しくみ」づくりを考えていただきたい。

### 区に対する要望など（37件）

- ・どのようなサービスが受けられるのか情報提供をもっとしっかりしてほしい。
- ・若い人にも福祉や介護、保険等の広報の充実。
- ・大きい活字で情報が欲しい。
- ・気軽に区に要望が出せるとよい。
- ・区の窓口の対応が悪い。
- ・電話の対応は老人向に。
- ・高齢者、障害者等の窓口を別々にしないで個々に担当者を決めてほしい。
- ・相談窓口の充実を希望します。
- ・高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）を窓口として一本化して欲しい。
- ・区の福祉の方で個人的に担当者を決めていただければ一人暮らしの私にとって幸に思います。
- ・介護保険導入前に比べサービスはもちろん、区役所の担当の方が親切に対応してくれるようになりました。青少年、高齢者にはまだまだ手助けがあっても良い
- ・もっと専門家の育成に力を入れてほしい。いつでも相談できる場がほしい。
- ・区の高齢者サービス課介護予防係の人と心から気軽に相談出来、話し合える場があると良いと希望しています。

### 介護者への支援に関すること（6件）

- ・介護をする人にもサポートが必要。介護をする人が利用できる家事のサービスが欲しい。
- ・家族で介護をする場合、体力や費用の負担が大きいため、家族に対しての補助を希望いたします。

### 認知症高齢者の介護者リフレッシュ等支援事業に関すること（6件）

- ・サービスの時間を8時～19時くらいにしていただけるとありがたいです。
- ・リフレッシュ券の時間をもっと増やして欲しい。

- ・制度があり助かります。継続を強く希望。
- ・リフレッシュ券でストレスが解消されたと思います。

#### 施策全般に関すること（13件）

- ・必要なときに24時間電話できるサービスがあるとよい。
- ・高齢者総合相談センターの方が月1回位でもまわってくださったらいい。
- ・月に一度位、民生委員の人に様子を見に来ていただくと相談事の間い合わせができる。
- ・身元引受人がない場合の行政上の対応がまだできていないようです。
- ・急な時に手助けしていただける人がいると安心です。
- ・高齢者本人、家族への心理的サポートの施策があれば望ましい。

#### その他のご意見（14件）

- ・非課税家族に対する細分化された新宿区の更なる助成金をお願い致します。
- ・バスの停留所に椅子を置いて欲しい。
- ・大久保通りを走るバスの本数が少ない。
- ・車いすを利用していますが、あまりに歩道の状態が悪く、危険を感じています。自転車とのすれちがいなど。輸送機関の利用がしづらい。
- ・老人家族です。防犯の点で心配。
- ・業者、業界、行政及びサービス利用者等との情報の共有を深める横の連絡網が充実すれば良い。

